

第2回

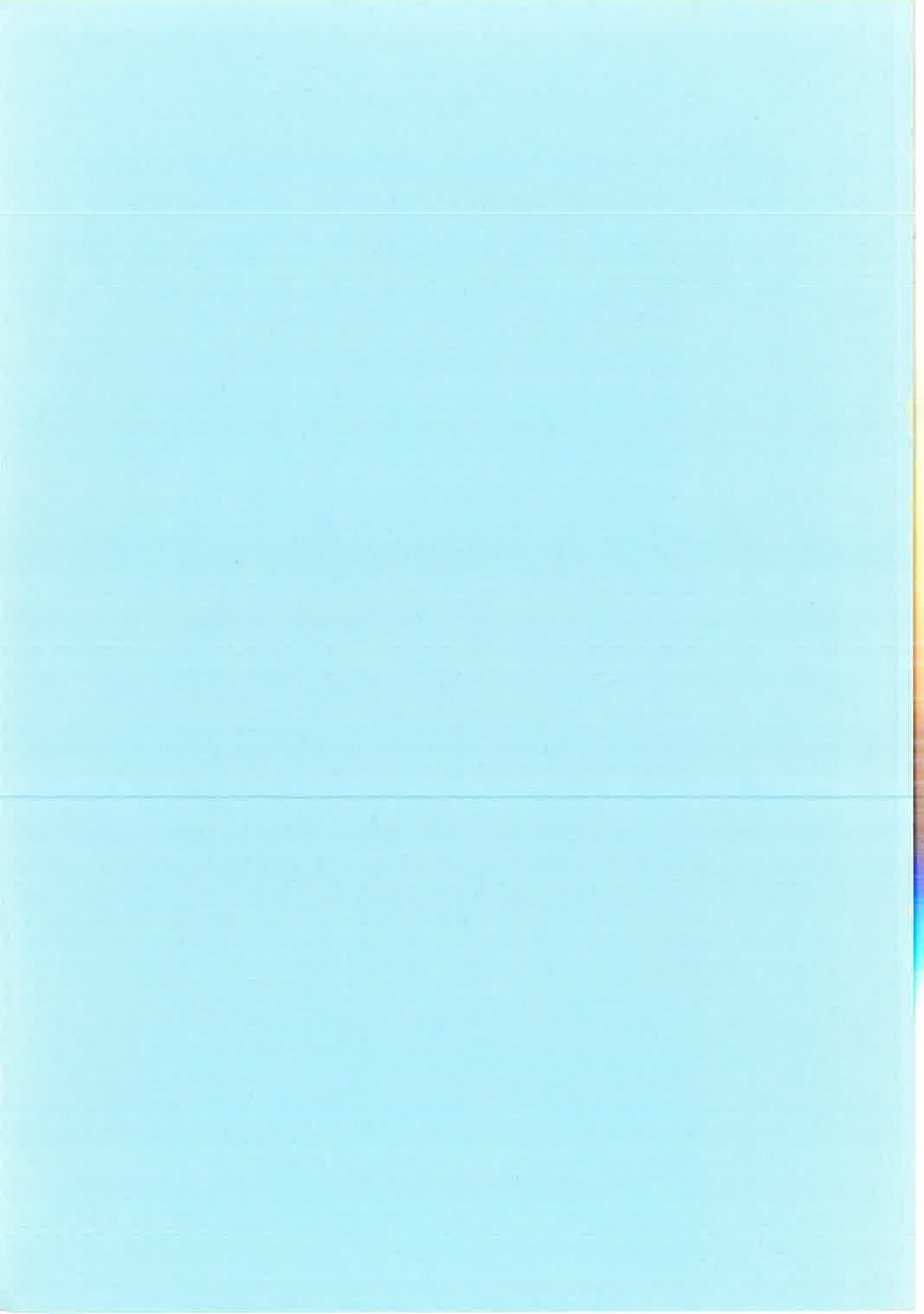
朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える 全国交流集会《資料集》

1991. 7. 27~28 兵庫県・西宮市



「朝鮮國獨立」の文字の残る西宮市甲陽園の地下工場跡

主催 第2回 朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会



目次

呼びかけ	4
要 綱	6
全体会	7
記念講演「『強制連行』調査の課題と展望」	
朴慶植氏	9
3分間スピーチ	10
分科会	11
① 入門講座	13
② 「花岡蜂起事件」に	
アジア民衆との連帯をたぐる	14
③ 土木建設工事と朝鮮人・中国人労働者	19
④ 炭鉱・鉱山・軍需工場と強制連行	26
⑥ 軍人・軍属・慰安婦	35
⑦ 教育実践	43
⑧ ビデオ（映像記録）	56
⑨ 地域史の見直し	61
⑩ 戦争動員・強制連行・強制労働と戦後補償	70
KOYOEN フィールド・ガイド	76
イラストマップ	77
「紫電改」をつくった川西航空機	78
高級住宅地の下にねむる地下工場・海軍地下施設	79
「朝鮮國獨立」の文字が残るトンネルの保存を！	81
映画「アリランのうたーオキナワからの証言ー」	82
賛同団体紹介（82団体）	84

よ び か け

日本の近代史は、アジア諸国への侵略の歴史でした。日中戦争時より始まった朝鮮人・中国人「強制連行」は、その侵略史の一断面です。

昨年5月の韓国ノ・テウ大統領の来日をひとつの契機として、朝鮮人強制連行問題がクローズアップされ、日本政府も被連行者の名簿調査を約束し、8月にその調査結果を発表しました。しかし、その調査がいかにもずさんで不十分なものであったかは、発表名簿の人数があまりにも少なかったことや、政府発表後も民間研究グループが次々と新しい発見をしていることなどからも明らかです。

そのようななかで昨年8月、私たちは、名古屋において初めて「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」を開きました。全国各地で調査活動を行っている個人・グループが、経験を交流し、知識を提供しあうために集まったのです。多くの仲間と出会うなかで、情報を蓄積し、さまざまな活動の手法を学ぶことができました。また、政府・自治体・企業に対して、資料を公開させるための運動力量を結集させることができたと考えています。

集会後は、岐阜県久々利、瑞浪の地下工場跡を共同で調査し、その規模の大きさを知るとともに、地元の研究グループのこれまでの働きに感銘を受けました。

こうした最初の全国交流集会の成果を引き継ぎ、さらに発展させるために、今年7月、私たちは西宮市（兵庫県）で第2回交流集会を開きます。全国の新しい仲間が日ごろの活動を報告し、昨年参加したグループはこの1年間の成果を持ち寄って、ともに学び合う場としたいと思います。さらに、フィールド・ワークとして、西宮市甲陽園にある「朝鮮國獨立」の文字が残されている地下工場跡を訪ねます。

調査と研究の領域で、強制連行・強制労働の真実を掘り起こし、日本のアジア侵略の歴史の一面を究明していくため、第2回交流集会に全国の仲間の参加を呼びかけます。

ANNOUNCEMENT

The Second Conference on Korean and Chinese Forced Laborers

The modern history of Japan is a history of invasion against the nations of Asias. One aspect of this history is the story of Koreans and Chinese forcibly brought to Japan to work in mines, factories and at military bases.

In August 1990, the First Conference on Korean and Chinese Forced Laborers was convened in Nagoya City. Many groups conducting research on this topic gathered from all over Japan to report on their findings and exchange information. The conference proved to be a valuable way to make friends with a similar interest in this issue for all concerned.

This summer we will hold a similar conference at Nishinomiya City in Hyogo Prefecture. This conference will provide the participants with the opportunity to report on their research over the preceding year.

On the second day of the meeting, we will make an inspection tour of the underground factory site in Koyoen, Nishinomiya City, in which the wall graffiti "Independence for Korea" can be viewed.

In order to make significant progress in our understanding of the history of Korean and Chinese forced laborers, we hope that as many people as possible will attend the conference. We look forward to seeing you in Nishinomiya in July.

DATE: July 27-28, 1991

PLACE: Nishinomiya City, Hyogo Prefecture

SPONSOR: The Executive Committee for the
Second Conference on Korean and
Chinese Forced Laborers

Please make inquiries to:

Mr. HIDA Yuichi

c/o Kobe Student Youth Center

TEL 078-851-2760

제 2 회
조선인, 중국인
강제연행·강제노동을
생각하는
전국교류집회

참가호소문

일본군대사는 아시아 여러나라에 대한 침략의 역사였다. 중일전쟁부터 시작된 조선인, 중국인 강제연행은 그 침략사의 한 단면이라고 말할 수 있다. 작년 5월 한국 노태우 대통령의 일본 방문을 계기로 조선인 강제연행문제가 큰 주목을 받아 일본 정부는 피연행자에 대한 명부 조사를 약속하고 8월에 조사 결과를 발표하였다.

그러나 그 조사가 얼마나 불충분한 것이었는가 하는 것은 발표된 명부 수가 너무나도 적었다는 것을 보도라도 알 수 있으며 정부 발표 후에도 각지에서 일반 연구단체가 새로운 명부를 연이어 발견하고 있는 것을 보도라도 명백하다.

그러한 상황 속에서 작년 8월 우리들은 나고야에서 처음으로 조선인, 중국인 강제노동, 강제연행을 생각하는 전국교류 집회를 가졌다.

이 집회는 전국 각지에서 조사 연구를 꾸준히 하고 있는 개인 및 단체가 경험과 정보를 서로 제공하고 돕기 위하여 모였던 것이다.

많은 친구들과 만나는 과정 속에서 정보를 축적하고 여러 가지 활동방법을 배울 수가 있었다. 또 정부, 자치체, 기업에 대해 자료를 공개시키기 위한 운동역량도 집결 할 수가 있었다.

또한 집회 마지막날에는 기후현 구구리, 미즈나미의 지하 공장유적을 공동으로 조사하고 그 막대한 규모에 놀랐으며, 현지그룹의 꾸준한 활동에 깊은 감명을 받았다.

처음으로 가져진 이와같은 전국교류집회의 성과를 계승 발전시키기 위하여 올해 7월에 효고현 니시노미야시에서 제 2 회 전국교류집회를 가지기로 하였다.

전국 각지에서 새롭게 참가하는 연구자 및 집단은 활동내용과 연구결과를 발표하고 작년 참가자들은 그후 새롭게 이룩한 1년동안의 성과를 보고하여 서로배우며 자극을 받는 장으로 하려고 한다.

또한 필드·워·크로써 『조선국독립』이란 글이 남아 있는 니시노미야시, 고-요-엔의 지하공장을 찾아가고자 한다.

조사와 연구의 영역에서, 강제연행, 강제노동의 진실을 파헤치고 일본의 아시아침략의 역사의 일면을 구명하기 위하여 제 2 회 전국교류집회에 많은 참가와 성원을 호소한다.

呼吁参加第二次 思考朝鲜人
中国人被强制押送和强制劳动的
全国交流集会

日本近代史是侵略亚洲各国之历史。由日中战争时期开始的“强制押送”朝鲜人，中国人就是该侵略史的一个侧面。

以去年五月，韩国的卢泰愚大总统来日作为一个契机，强制押送朝鲜人的问题被轰动一时，当时日本政府也保证调查被押送者名册，并在同年八月份发表了该调查结果。但是，其调查是如何杜撰的，且不充分，不仅从发表名册上的人数过份少上可以显明，而且民间研究小组在政府发表后也接二连三地发现了新的人数。

在此种情况下，我们于去年八月在名古屋首次召开了，思考朝鲜人、中国人被强制押送、强制劳动的全国交流集会。目的是为了现在在全国各地展开调查活动的个人及团体互相交流经验，互相提供知识。通过了结识众多的同事，我们积累了情报。学到了各种活动的手法。并且集中了动员政府、自治体、企业公开资料情报的运动力量。集会后，我们共同调查视察了岐阜县久々利、瑞浪的地下工厂的遗址，了解了其规模之大同时，对于当地研究组至今所作出的努力工作，我们铭感在心。

为了继承这种首次全国交流集会的成果并且进一步发展它，我们将于今年七月在西宫市（兵库县）召开第二次集会。这次集会将成为全国各地新朋友汇报近来活动、去年参加的团体汇集该一年来的成果，互相学习的好场所。最后，作为实地工作，到时还将访问位于西宫市甲阳园存有“朝鲜国独立”文字的地下工厂遗址。

为了在调查和研究的领域里，进一步发现强制押送、强制劳动的新事实，追究日本侵略亚洲历史的一面，我们呼吁全国的朋友们来参加第二次交流集会。

要 綱

~~~~~ <7月27日(土)> ~~~~~

全体集会 (於/西宮勤労会館)

- |            |                             |             |
|------------|-----------------------------|-------------|
| ① あいさつ     | 西宮市長 八木 米次                  | 13:10~13:20 |
| ① あいさつ     | 戦争の記録を残させる西宮市民の会 小田 実       | 13:20~13:30 |
| ② 3分間スピーチⅠ |                             | 13:30~14:30 |
| ③ 記念講演     |                             |             |
|            | 「『強制連行』調査の課題と展望」 歴史家 朴 慶 植氏 | 14:30~15:00 |
| ④ 3分間スピーチⅡ |                             | 15:00~15:50 |

分科会Ⅰ ※ 各分科会の部屋は、別紙配付します。 16:00~17:30

食事(弁当を各分科会会場で販売します) 17:30~18:00

分科会Ⅱ 18:00~20:00

※ 神戸学生青年センターへ移動  
(JR西宮駅から六甲道駅下車 北東へ徒歩10分)

交流会 (於/神戸学生青年センター Tel 078-851-2760) 21:00~

~~~~~ <7月28日(日)> ~~~~~

フィールドワーク(西宮市甲陽園の地下工場跡)

- ① 9:00 (※ 神戸学生青年センターの宿泊者のみ 8:00センター出発)
② 10:30 集合は、甲陽園小学校(阪急電車甲陽園駅南東徒歩3分)

「アリのうた(朴壽南製作)」特別上映会 (10:00~11:50 一回のみ)
(於/甲陽園小学校)

【注意】神戸学生青年センターでの宿泊参加者は、フィールドワーク→映画となります。それ以外の地元の参加者は、申し訳ありませんが、フィールドワークか映画かのいずれかをお選び下さい。

全体集会 (於/甲陽園小学校) 12:00~12:30

第 1 日

(7 月 2 7 日)

全 体 集 会

西宮市立勤労会館

王 明 著

《王明文集》总序

《王明文集》编辑委员会

王 明 著

《王明文集》编辑委员会

《王明文集》编辑委员会

記念講演

第2回全国交流集会を迎えて

「強制連行」調査の課題と展望

朴慶植 氏

講師紹介

朴慶植（パク・キョンシク）

1922年 朝鮮に生まれ、

1939年 日本に渡る。

1949年 東洋大学文学部史学科卒業。

以後、1970年3月まで 東京朝鮮中・高級学校および朝鮮大学校教員。
現在 朝鮮近現代史研究に従事。アジア問題研究所代表。在日朝鮮人運動
史研究会関東部会を主宰。『在日朝鮮人史研究』（既刊20号）を編
集刊行。

主著 *『太平洋戦争中における朝鮮人労働者の強制連行について』（朝
鮮大学校地理歴史学科、1962年）

*『朝鮮人強制連行の記録』（未来社、1965年）

*『日本帝国主義の朝鮮支配（上）（下）』（青木書店、1973年）

*『朝鮮三・一独立運動』（平凡社、1976年）

*『在日朝鮮人運動史—8・15解放前』（三一書房、1979年）

*『解放後在日朝鮮人運動史』（三一書房、1989年）

その他

編書 *『在日朝鮮人関係資料集成』全5巻（三一書房、1975～76
年）

*『朝鮮問題資料叢書』全16巻（アジア問題研究所、1981～
91年）

3分間スピーチ

- ① ピットムの会
- ② 「史実」になれなかった「真実」―協和隊45年目の証言―
青木康嘉（岡山県立玉野光南高等学校教諭）
- ③ 香川でのとりくみ
浄土 卓也（香川県）
- ④ 大阪府泉南における強制労働・強制連行
園部 俊治（泉南高校教師／大阪府朝鮮人強制連行真相調査団）
- ⑤ 戦後補償と土地追い出し
横川 栄二（地上げ反対！ウトロを守る会）
- ⑥ 小園 優子（日吉台地下壕保存の会）
- ⑦ 自己紹介と日本での強制連行研究に対する所感
金 旻 榮（韓国全南大学経済学科非常勤講師／佐賀大学研究留学中）
- ⑧ なぜ追悼碑を建立するのか
嶋田 実（三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裴相度）の追悼碑を建立する会）
- ⑨ 「強制連行の足跡を若者とたどる旅」
加藤 慶二（強制連行の足跡を若者とたどる旅／日本キリスト教団九州教区）
- ⑩ 韓国・朝鮮人BC級戦犯と日本の戦争責任・戦後責任
田口 裕史（韓国・朝鮮人戦犯を支える会）
- ⑪ 「マンガン鉱山に生きる」
李 貞 鎬（マンガン鉱山史を記録する会）
- ⑫ 山形県の朝鮮人の強制連行について
佐久間 昇（山形県地域史研究会）
- ⑬ 浅川地下壕と朝鮮人労働について
斉藤 勉（八王子の地下壕問題を考える会）
- ⑭ 国家・企業の戦後責任
石田 元博（花岡“蜂起”問題にこだわる会）
- ⑮ タチソ・トンネル保存について
宇津木 秀甫（「タチソ」戦跡保存の会）
- ⑯ 長野県の松代大本営建設現場近くに残る朝鮮人「慰安婦」の家の
移築保存について
菊池 嘉晃（松代大本営を考える会）
- ⑰ 中山 正人（教育と命を考える熊野市民の会）
- ⑱ 朝鮮人従軍慰安婦問題を考える
朴 美津子（従軍慰安婦問題を考える会）
- ⑲ 長生炭鉱の“水非常”について
澄田 亀三郎（長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会）

―その他―

分 科 会

時 間 : 16:00～17:30
食事(各分科会会場で弁当) 17:30～18:00
18:00～20:00

場 所 : 西宮市立勤労会館
(各分科会の部屋割は当日に発表します)

分科会の構成

- 第1分科会 入門講座
- 第2分科会 「花岡蜂起事件」にアジア民衆との連帯をたぐる
- 第3分科会 土木建設工事と朝鮮人・中国人労働者
- 第4分科会 炭鉱・鉱山・軍需工場と強制連行
- 第5分科会 地下工場・地下軍需施設建設工事と強制連行
- 第6分科会 軍人・軍属・従軍慰安婦
- 第7分科会 教育実践
- 第8分科会 ビデオ(映像記録)
- 第9分科会 地域史のみなおし
- 第10分科会 戦争動員・強制連行・強制労働と戦後補償

各分科会のねらい、発表予定は次頁以下に掲載しています。

- (1) 発表予定は順不同です。
- (2) ※印は、レジュメが本資料に掲載されているものです。
- (3) 当日は若干の変更があるかもしれませんので、ご了承ください。

第1分科会

(入門講座)

司会 堀内 稔、足立龍枝

〈この分科会のねらい〉

朝鮮人・中国人の「強制連行・強制労働」問題とは何か、地域での調査活動をどのように進めるか、の二つの点を中心に、わかりやすく話していただきます。はじめてこの問題に関心を持った人や、これから地域で在日朝鮮人・中国人の歴史を勉強し、自分で調査してみたいと思っている人を対象にしている入門講座です。

地域に残る在日朝鮮人・中国人の足跡を、自分の足で探し、自分の目でたしかめていくことは、同時に日本の社会をあらためて見直すことになります。この分野の歴史は空白のページが多く、それをあなた自身の手で記述してください。この分科会に参加すれば、あなたはもう明日から地方史研究家です。

〈プログラム〉

① ビデオ「闇のなかの歴史」(富山テレビ)

解説……澤田純三(富山県庄川町議)

② 朝鮮人強制連行と中国人強制連行

講師……田中 宏(愛知県立大学教授)

③ 地域での調査の進め方

講師……金蓬洙(ピットムの会)

第2分科会

(「花岡蜂起事件」にアジア民衆との連帯をたぐる)

司会 猪八戒、金唱律

く「花岡蜂起事件」と、この分科会のねらい>

1945年6月30日夜、秋田県の鹿島組花岡出張所に連行された中国人800名が蜂起した。

軍需増産の名で、虐待を合法となし、虐殺を繰り返した日本人補導員と中国人の同胞を裏切り続けた者1名を殺し、獅子ヶ森にこもった。素手・石・ツルハシでの抵抗は、やがて圧倒的な数の軍と警察、在郷軍人会と自警団などに包囲され、鎮圧された。

蜂起に敗れた中国人は、共楽館前広場に狩り集められ、三日三晩一滴の水すら与えられず、炎天下で両膝に食い込む鋭角の菱形小石にさいなまれ、共楽館内での厳しい取調べと拷問の中、その場で約100名が絶命した。

1944年8月の連行当初より、彼らが帰国するまでに、1000名のうち418名もが次から次へと地獄絵巻にその血を吸われ殺された。

中国人の蜂起はきわめて高い道義性を持っていた。日本人補導員といえども、中国人を「人間扱い」した2名に対しては、いずれもが当直しない日時に蜂起決行している。また、日本人の一般民衆にはいかなる攻撃も禁じた。

しかし、日本帝国主義の報復行為はすざまじかった。教師に引率され指導された小学生までもが、「チャンコロ、シナ人」と石を投げ、棒を手になされた。

そして、日本帝国主義の敗北と中国人の帰国。花岡事件のみが、唯一極東軍事裁判B・C級横浜法廷にかけられ、鹿島組現場責任者らが有罪となった。地元周辺からおびただしい数の減刑嘆願署名がGHQに提出されていた。

この時期、在日朝鮮人は、朝鮮人連盟への解散命令に屈することなく、中山寮跡に散乱する中国人の遺骨発掘運動を展開していった。「自由労働組合」の中心を担っていた朝鮮人は、地元の日本人組合員を巻き込んだの激しい闘いを、対鉾山側・役場と繰り広げた。

鉾山の町、花岡に連行された中国人・朝鮮人。花岡蜂起事件をたて糸として、日本の民衆史との関係をできるかぎり具体的に浮かび上がらせ、連帯の道を模索していきたい。

〈プログラム〉

- ① ビデオ「鉾泥の底から」
- ② 花岡蜂起事件についての年表および基本文献などの発表
……分科会司会者より
- ※③ 民衆の手で強制連行の追及を
……石田元博（花岡“蜂起”問題にこだわる会）
- ④ 花岡蜂起の継承と花岡運動
……石東綱彦（東京都）
- ⑤ 極東軍事裁判横浜法廷での花岡事件関係写真スライド
- ⑥ 朝鮮人からみた花岡事件と中国人の遺骨発掘運動
……李又鳳（秋田県）
- ⑦ 各地の碑などに見る朝鮮・中国と日本——写真を通して
……金唱律（ピットムの会）

民衆の手で強制連行の追求を

1989年12月22日、北京において耿諄さんら花岡事件の生存者・遺族は45年間の沈黙を破り、〈花岡事件受難者联谊会〉を結成し“鹿島建設に対する公開書簡”を発表しました。

①鹿島建設が花岡事件の生存者・遺族に謝罪すること。

②記念館を設立し、後世を教育すること。

③花岡事件の受難者に対し補償・賠償を行なうこと。

この3項目を受けて、昨年6月に来日した〈联谊会〉の耿諄さんたちは、7月5日の企業との直接交渉の結果「共同発表」を引き出しました。その中で鹿島建設は、「中国人が花岡鉱山出張所の現場で受難したのは、閣議決定に基づく、強制連行・強制労働に起因する歴史的事実であり、鹿島建設株式会社は、これを事実として認め企業としての責任があると認識し、当該中国人生存者・及びその遺族に対して深甚な謝罪の意を表明する。」と、企業として初めて謝罪しました。

しかし、鹿島建設は耿諄さんたちが帰国するや、「強制連行・強制労働等の問題は、日本政府の問題であり一企業の責任ではない・・」等として責任を回避し続けており、また日本政府も今だに、連行・酷使・虐待・虐殺された中国人について、強制連行と強制労働がもたらした結果であることすら認めておりません。

一般的に中国人強制連行は、1942年11月27日の閣議決定“華人労務者内地移入に関する件”に基づいて開始されたと言われますが、実際はどうであったのでしょうか。

1939年7月北海道土木連合会内に設けられた外地労働者移入組合（代表・地崎宇三郎）は、厚生内務大臣宛の「願書」の理由の中で、「全国的なる労働不足は姑息なる方法にてはどうてい打開し難きを察し、ここに支那本土より労働者を移入しこの問題を根本的に解決するの外無し・・・」と積極的に働きかけています。

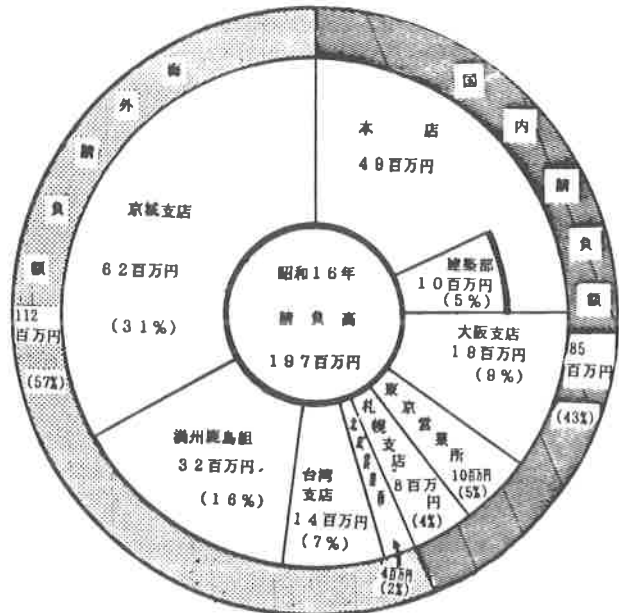
土木・鉱山・石炭等各業界はこれ以後何度も中国人強制連行を画策し、政府と一体となって進めていきます。閣議決定の直前1942年10月24日には、石炭統制会が政府の指示に基づき「極秘・苦力使用に関する件」として、各企業に対して「移入希望数、使用の場所、使用開始時期」を回答させていきます。

すでに、1937年7月7日中国への全面侵略戦争に乗り出し、

1941年における鹿島組支店別請負金額

偽「満州国」でダマシ募集と強制連行の労働政策で、政府と企業は肥え太っていました。その経験を、日本国内へ持ち込んだのです。

こうして、“閣議決定”を経て、1943年4月より「強制連行」が開始されました。そして最終的には統計で分かっているだけでも約4万人の中国人が強制連行され、その内約7千名が虐殺されたのです。



日本政府及び鹿島建設は、今もって連行した中国人の身分を「契約労働者」であるとか、「賃金」は支払済などと主張しています。

連行された中国人は、日本軍により「兎狩り」で捕えられた農民や「捕虜」でした。当時の軍の「作戦経過概要」の中でも「戦利品」として様々な物品・牛・羊・山羊と並んで、「劳工」があげられていました。また「連行名簿」の中にも「捕虜」であることがはっきりと記されています。

こうして捕まえた中国人たちを名ばかりの「劳工訓練所」＝「強制収容所」に放りこみ、「契約労働者」として日本へ強制連行したのです。

残された家族は、生活用品を掠奪され、働き手を奪われ、貧困のどん底に突き落とされました。それにより老人や歳若き者の多くが死に追いやられました。4万人の強制連行の陰でどれだけの犠牲者がいたのでしょうか。

強制連行され虐待・虐殺された、生存者・遺族にとってこの問題は45年前のことではなく常に“今”のことです。私たちは、癒されぬ傷を抱える生存者・遺族の思いを受けとめ、自らの責任において、日本政府・企業に対してその責任を追求し続けなければならないと思います。

MEMO

第3分科会

(土木建設工事と朝鮮人・中国人労働者)

司会 徐根植、宋秀子

〈この分科会のねらい〉

朝鮮人・中国人の日本での労働現場は、おもに土木建設工事の現場であったと言えます。この分科会では、時期を強制連行期以前にも広げ、鉄道、道路、ダム、ため池、河川改修工事などでの朝鮮人・中国人労働者の苦難と犠牲、地域社会への貢献、日本人との連帯・親交の歴史的事実をとりあげます。

最近、解放(1945年)前に建立された工事現場で犠牲になった朝鮮人の名前が刻まれた追悼碑、慰霊碑などの石碑が相次いで見つかり、石碑調査への関心が高まっています。石碑とともに新しく発掘された事例を報告していただき、この分科会を契機に朝鮮人関係の石碑調査を全国的に展開したいと考えています。“碑いしぶみよ語れ、わが同胞の歴史を!”が、この分科会のキャッチフレーズです。

〈プログラム〉

※① 昭和池と朝鮮人労働者

……友井公一(兵庫県社町議)

※② 近鉄旧青山トンネル工事における朝鮮人労働者

……森川篤実(三重在日朝鮮人史研究会)

※③ 日本軽金属㈱・富士川水電工事への朝鮮人労働者動員の実態と課題

……金 浩(在日朝鮮人運動史研究会関東部会)

④ 朝鮮人関係の石碑調査について

……分科会司会者より

昭和池と朝鮮人労働者

発表：友井公一

トモイキミカズ

- 1, 昭和池殉職者慰霊塔のある場所
 - ・兵庫県加東郡社町山口（旧加東郡上福田村）・中国自動車道滝野・社インターから約6K、10分
- 2, 昭和池殉職者慰霊塔の発見
 - ・1966年夏 昭和池キャンプ場開設時に樹木に隠れていた碑を見つける。
- 3, 昭和池工事について
 - ①昭和池築造の目的
 - ②工事内容及び工事期間
 - ・1928年10月～1934年3月
 - ・ため池工事 —1928年10月（昭和3年）～1933年3月（昭和8年）
 - ・引水路 2本 —1931年12月（昭和6年）～1932年7月（昭和7年）
 - ・幹線水路 3本 —1933年 5月（昭和8年）～1934年3月（昭和9年）
- 4, 工事に従事した朝鮮人労働者
 - ①朝鮮人労働者数
 - ・1930年（昭和5年）の国勢調査によると加東郡上福田村に「外地人」 男82人 女24人 計106人となっている。
 - ②事故による犠牲者
 - ・朝鮮人4名 日本人3名 （神戸新聞記事参照）
 - ③事故による負傷者 （証言）
 - ・西山金次郎さん（1914年生まれ）
「そら、そうやろう。トンネル工事などは、ダイナマイトの暴発なんかで手や足をもぎ取られた人もいたということや。大きな怪我をした人は10人や20人でできんやろ。そらア、あぶない仕事やったさかいなアー」
 - ④朝鮮人労働者と日本人労働者の交流
 - ・朝野角一さん（1925年生まれ）
「私がまだ小学生の頃です。休みの日とか、仕事の帰りに、よく朝鮮人が家に来ていました。親父と酒を飲んだり、飯を食べたりして色々話をしていました。芋や野菜などをもたしてやっていました。漬物や珍しいものを貰ったりしていました。」

5. 碑銘

- ・正面：『慰靈塔』
- ・後面：『殉職者』

| | |
|---------|-------|
| 『中島榮治』 | 『関旦基』 |
| 『定松市太郎』 | 『薛英賛』 |
| 『井上春松』 | 『趙仁植』 |
| | 『崔鳳鶴』 |
- ・右横：『昭和九年三月建之』
(1934年)

6, 兵庫県内の各地で行われた、ため池築造工事にたくさんの朝鮮人が従事し犠牲者も少なからず出た。

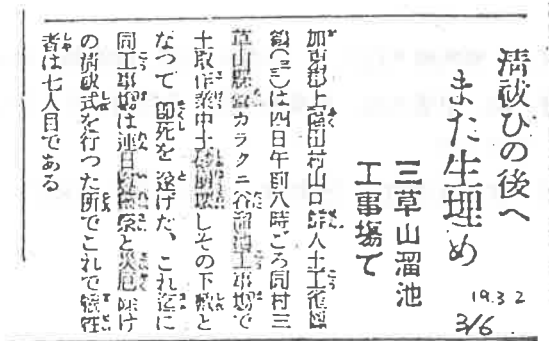
- ①神池工事 氷上郡市島町(旧氷上郡鴨庄村)
②記念池工事 西脇市上比延町(旧多可郡比延庄村)



1931年（昭和6年）5月7日 神戸新聞（夕刊）



昭和池殉職者慰霊塔



神戸新聞 1932年3月6日

近鉄旧青山トンネル工事と朝鮮人労働者

三重在日朝鮮人史研究会 森川 篤実

1. 私たちは一昨年より朴慶植先生を三重にお迎えして月一回の学習会を持ってきた。『在日朝鮮人運動史』を主な底本として三重の在日朝鮮人史を掘り起こそうというのが目的である。会員は数名であるが、朝日新聞、伊勢新聞の記事を拾うところから出発した。その新聞記事中に「(青山トンネルで) 朝鮮人 千五百名の健康診断を行う」というのを見いだし、それをきっかけとしてこの調査が始まったのである。

幸い(?) と言うべきなのか、旧青山トンネル西口付近に工事請負業者である大林組の建立した「供養塔」がある。まずこの「供養塔」に刻まれている死者の名前を明らかにし、ついで現在に至るまで供養をいただいている普福寺から聞き取りをすることから始めた。同時に当時現場労働に就いていた地元の方からの聞き取りも進めていった。聞き取りの中で『工事實例 青山隧道編』も紹介され、おぼろげながらもトンネル工事と朝鮮人労働者の姿が判ってきた。昨年九月からの作業で、トンネル東口については手づかずの状態なので不十分の誇りはまぬがれないが、現在判明した範囲内で報告したい。

2. 近鉄旧青山トンネル(旧青山トンネルは単線型トンネル、全長3432m。1976年 3月複線型の現青山トンネル開通まで使用。当時近鉄は参宮急行電鉄とよばれていた) 工事は1928年 3月から1930年 8月(開通は1930年12月)まで行われた。トンネル西側坑口では「九三一メートルの地点からは、……トンネルの進行正面はいつも水たまりで、停電して排水ポンプが動かなかつたりすると、忽ち切羽一帯は水びたしになってしまう。予想された難工事」(木本正次『東への鉄路-近鉄創世紀』講談社1974年 p.140)であったという。

青山トンネル工事は大林組が請負い、名賀郡上津村大字伊勢地の西口方面(現在の青山町上津伊勢路)と一志郡倭村大字垣内の東口方面(現在の一志郡白山町垣内)の両口からほぼ同じ規模で始まった。青山トンネル工事は単一で行われたのではなく、桜井、宇治山田間の全線鉄道敷設の中での工事であった。

3. 供養塔には16名の犠牲者が刻まれている。現在青山トンネル工事犠牲者を知る唯一のてがかりとなるものである。16名の犠牲者のうち明らかに朝鮮人と判明できるのは 8名であるが、「樋口光相」もその名前からして朝鮮人ではないかと考えられる。供養塔には次のように記されている。

「昭和五年三月 大林義男謹書 青山工事殉難者氏名 佐藤久次郎、洪海龍、金元植、高野政雄、李珍和、瀬川信太郎、曹一龍、東勇次郎、高橋傳四郎、金京賢、朴三伊、李徳順、全岩伊、船渡武雄、樋口光相、半田三市」

また16名のうち12名の死亡原因は『工事實例 青山隧道編』(西畑常 大正商工社、1932年)

に見ることができる。それによると、佐藤久次郎（42）「作業中岩石落下即死」、洪海龍（17）「ミキサー歯車に巻き込まれ死亡」、金元植（36）「トロの下敷きとなり死亡」、高野政雄（28）「材料墜落のため即死」、李珍和（31）「トロに挟まれ負傷ついに死亡」、瀬川信太郎（27）「機関車脱線下敷きとなって即死」、曹一龍（31）「爆破による岩石破片で死亡」、高橋傳四郎（44）、金京賢（25）、朴三伊（22）、李徳順（34）、全岩伊（19）「発破で支保工倒壊のため即死」となっている。残りの4名については不明である。これらの死者は善福寺で火葬にされたようである（善福寺、地元の人の証言）。しかし善福寺過去帳には載っていない。

次に労働者数についてであるが、青山町教育委員会に残る資料を見ると、「人員 300人余」「土工約五百人（内多数朝鮮人）」とか書かれている。トンネル西口と東口の工事は同じ規模であったのでトンネル工事にかかわる労働者はこの倍数となる。推定でしかないが私は最大 600名の朝鮮人労働者を数えている。

4. 聞き取りの一部を紹介しておく。（全て仮名）

①ある時、トンネルが崩れた。掘るときは松の木で鳥居を作り松の板を入れていくのやが、柔らかかったのか崩れた。奥で仕事をしていた人が閉じ込められ、真空になり、排水路がつぶれたために中に水がたまってきた。外では「アイゴー、アイゴー」と朝鮮人の奥さんが隧道の入口で泣いていた。この時、何人死んだか覚えていない。16名の死者？ 一度には死んでいない。労働者のほとんどが朝鮮人であった。日本語はカタコト話していた。皆頑丈な体をしていた。お互いには朝鮮語を話していた。親しくした朝鮮人はいない。皆飯場やから。

この伊勢路に吉木さんという朝鮮人が家を借りていた。現場の監督で奥さんが日本人やった。工事でこちらにきて、久野ヨシミさんの家を借りていた。その長女と孫は現在もここ（青山町）に住んでいる。（トンネル内のブロック積みとして働く。1901年生、男性）

②私の家の馬屋（八畳くらい）には朝鮮人が親子四人入っていた。子供二人はまだ学校にいない年だった。本名は覚えていない。私たちは「ドガさん」と呼んでいた。私のことを「大家の姉さん」と言っていた。この奥さんは朝鮮服を着ていた。チマはきれいにして胸の前で長い紐を結んでいた。日本語はじょうずだった。友達同志では朝鮮語を話していたので「何て言ってるの」と聞いて教えてもらった。白菜を刻んで漬物を作っていて時々貰ったことがある。チマも自分で作っていた。ドガさんの奥さんは、たまの休みにはチマを着て上野の方へ子供をつれて買い物にいていた。監督なんかをしていたのだと思う。お金を儲けて朝鮮へ帰るのや、この子らを学校にいらして仕込んでやりたいと言っていた。（朝鮮人労働者に間貸しをし、自ら飯場で炊事婦として働く。1908年生、女性）

5. 課題として東口の調査が残っている。重軽傷者「七十数名」を数えるがその実態はつかんでいない。また青山町に定住した朝鮮人の聞き取りもしていない。課題のほうがはるかに多い。

日本軽金属(株)・富士川水電工事への

朝鮮人労働者動員の実態と課題

在日朝鮮人運動史研究会：金 浩

■ 1939年4月、準国策アルミニウム製錬会社として設立された日本軽金属(株)による一万名を超す朝鮮人労働者の動員は、これまで社史・回想録・地方史誌等の既存文献において、その存在指摘さえなされていない。37年9月富士川電力(株)(39年5月、日軽金に吸収合併)による着工から、45年9月に至る工事期間中には、山梨・静岡両県を合わせ数千名に及ぶ被強制連行朝鮮人労働者の存在も確認され、強制連行初期の土木事業としては日本有数であり、戦時下アルミニウム生産との関連においてとりわけ重要な位置を占めるものである。

■ 1) 工事概要

第Ⅰ期(1937年9月～39年2月) 富士川電力(株)～波木井発電所建設

第Ⅱ期(1939年3月～42年12月) 日軽金(株)～第1・第2発電所および導水路トンネル工事

第Ⅲ期(1943年4月～45年9月) 日軽金(株)～佐野川発電所・本栖発電所試験放水路工事

工事請負：飛島組・西松組・大倉土木

総延長～50km

波木井発電所 - 19900kw

富士川第1発電所～38200kw

富士川第2発電所～47400kw

佐野川発電所 - 5800kw

第1発電所水路～20km(90%が導水路トンネル)

第2発電所水路～18.5km(90%が導水路トンネル)

2) 日軽金(株)と戦時下アルミニウム生産における位置

| | 国内生産 | 日軽金全体(国内比) | 日軽金蒲原工場 |
|------------|----------|-----------------|-----------------|
| 戦時増産計画 | 93000 t | 50000 t (53.8%) | |
| 完成後生産能力 | 131600 t | 50000 t (38%) | |
| 設備能力(45.8) | 130300 t | 54000 t (41.4%) | 36000 t (27.6%) |
| 戦時最高生産 | 118523 t | 53888 t (45.4%) | 34604 t (29.2%) |

◆ アルミニウム地金部門別配給状況(%)

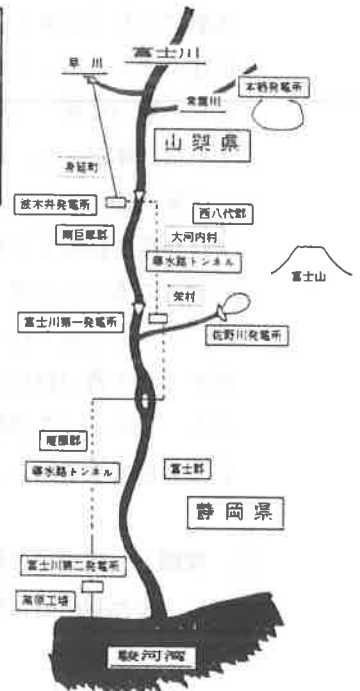
| 会計年度 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 航空機用 | — | — | — | 60.9 | 72.4 | 89.0 | 100.0 |
| 陸軍 | 45.0 | 38.0 | 42.8 | 13.7 | 7.8 | 3.2 | 0 |
| 海軍 | 34.0 | 41.5 | 36.6 | 5.4 | 4.8 | 3.3 | 0 |
| 官民需 | 21.0 | 20.5 | 20.6 | 20.0 | 15.0 | 4.5 | 0 |

3) 朝鮮人労働者動員の実態

◆ 朝鮮人労働者推定数

波木井発電所 - 800～900名(含家族)

第1発電所・導水路 - 4000～6000名(含家族～9000名)



※ 以上に逃走者を加えるならば山梨県側のみで1万名超、静岡県側(第2発電所・導水路)を加え両県では1万5千名(含家族)と推定される。

◆ 被強制連行朝鮮人労働者

| | 山 梨 | | | 静 岡 | |
|------|-------|------|------|-------|------|
| | 募集認可数 | 移入者数 | 実数 | 募集認可数 | 移入者数 |
| 39年度 | 1400 | 800 | | 1230 | |
| 40年度 | 1250 | 944 | 1428 | 1110 | 703 |
| *1月 | 1400 | 800 | | 1530 | |
| *2月 | 1400 | 1042 | | 1610 | |
| *3月 | 1400 | 1381 | | 1610 | 574 |
| 41年度 | 2450 | 2301 | | 3860 | 3408 |
| 42年度 | 2450 | 2301 | 2835 | 4653 | 4589 |

(『社会運動の状況』。*は「特高月報」による補正)

◆ 管理・統制体制

- ・39年8月防犯委員会(請負業者単位)設置
- ・39年12月山梨県協和会南部支会結成
- ・40年10月愛国班(飯場単位)結成

◆ 逃走率

| 年度 | 山梨 | 静岡 | 全国平均 |
|----|------|------|-------|
| 40 | 49.8 | 30.3 | 20.8% |
| 41 | 31.9 | 41.2 | 34.1 |
| 42 | 40.5 | 39.7 | 39.3 |

◆ 土建・移入朝鮮人労働者

雇入総数(42年)

| | 3月末 | 6月末 |
|---|---------|---------|
| 1 | 北海道6362 | 北海道6729 |
| 2 | 静岡3250 | 静岡3324 |
| 3 | 山梨2274 | 長野3084 |
| 4 | | 神奈川2460 |
| 5 | | 山梨2274 |

(『移入朝鮮人労働者状況調』)

◆ 犠牲者-『社史』・回想録では全く触れられていない。

- ・新聞報道で確認される死亡者16名(38年~40年、山梨県側)
 - ー現場監督(日本人-日軽金唯一の犠牲者)1名を除き全員朝鮮人
- ・他に20余名の死亡事故あり(内訳不明)
- ・新聞報道されなかった死亡事故の存在、静岡県側小規模事故が不明であることより死亡者が上記36名を上回することは確実-補償については一切不明

■ 問題点

- ・手抜き工事による多くの犠牲者-『社史』・回想録による朝鮮人労働者の「存在」抹殺
- ・戦後の企業利益(軍事関係動員との相異点)-補償問題
- ・現在の企業対応-91年8月新聞報道(朝日新聞山梨県版)に際しての末端に至る箝口令
 - 〃 TV報道(NHK静岡)に際しての本社の対応
- ・杜撰な90年日本政府調査-歪曲された『労働者名簿』-県議会での知事答弁
- ・興味本位な取り上げ方-強制連行のみのクローズアップがもたらす問題の矮小化・歪曲

■ 参考文献

- ・静岡県地理教育研究会編『富士川の変貌と住民』(1976年、大明堂)
- ・金 浩「日本軽金属(株)による富士川水電工事と朝鮮人労働者動員(1939~41年)」
(『在日朝鮮人史研究』第19号、1989年)
- ・金 浩「日本軽金属(株)による朝鮮人強制連行と『労働者名簿』-批判と検証-」
(山梨県歴史教育者協議会『山梨の歴史教育』第3号、1991年)

第4分科会

(炭鉱・鉱山・軍需工場と強制連行)

司会 川瀬俊治、島津威雄

〈この分科会のねらい〉

15年戦争下、1938年に日本政府は「国家総動員法」を公布し、戦時経済体制を敷いて、基幹エネルギーである石炭の増産を中心に、軍需産業の労務を国家の全面管理下におきます。こうしたなかで、炭鉱・鉱山・軍需工場の“重筋労働力”として、朝鮮半島から朝鮮人を計画的かつ集団的に大量移入していきます。いわゆる朝鮮人強制連行政策です。

強制連行は1939年から始まるとされていますが、その実態はどうか。この分科会では、これまでの研究・調査を集大成し、資料の公開などの共通する課題を整理したいと考えています。朝鮮人労務動員の組織として機能していた協和会の活動についてもとりあげ、炭鉱・鉱山での労働実態はどういうものであったかという視点でも論議します。

〈プログラム〉

- ① 長生炭鉱の“水非常”について
……山口武信（長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会）
- ② 長崎の炭鉱の歴史と強制連行問題
……前川雅夫（長崎県）
- ③ 大阪府泉南における強制労働・強制連行
……園部俊治（大阪府朝鮮人強制連行真相調査団）
- ④ 広島における強制連行の調査について（仮題）
……山田忠文（広島の強制連行を調査する会）

第5分科会

(地下工場・地下軍需施設建設工事と強制連行)

司会 洪祥進、伊地知紀子

〈この分科会のねらい〉

ここ数年、急速に調査・研究が進展したのが、戦争末期の地下工場・地下軍需施設建設工事への朝鮮人の強制連行・強制労働です。全国いたるところに残るトンネル跡は、無謀な侵略戦争の末路をさらけ出すとともに、犠牲になった朝鮮人労働者の怨嗟の聲が染み込んでいます。

軍機密のなかでの工事であったため、その実態調査は難しい点が多くあります。そのなかで真相究明活動に活躍している各地のグループからの最新の情報を集めます。そして、各地のこれまでの調査・研究の成果を総合していくきっかけになる分科会をめざします。“トンネルの暗闇のなかに真実の歴史を照らす光がある”。これがこの分科会のキャッチフレーズです。

〈プログラム〉

※① 地下工場・地下軍用施設の現状と調査状況

……鄭鴻永（兵庫朝鮮関係研究会）

※② 浅川地下壕の掘削と朝鮮人労働者について

……齊藤 勉（八王子の地下壕問題を考える会）

③ 大阪と朝鮮人強制連行（仮題）

……空野佳弘（大阪府朝鮮人強制連行真相調査団）

※④ 高槻「タチソトンネル群」保存の会の取り組みと今後の課題

……金博明（高槻「タチソ」保存の会）

地下工場・地下軍用施設の現状と調査状況

兵庫朝鮮関係研究会 鄭 鴻 永

I 太平洋戦争中に建設された地下施設

1. 地下軍需工場

(1) 航空機及びその関連地下工場

| 建設状況 | | 確認・調査状況 | | |
|------|-----|---------|--------|---------|
| 府 県 | 建設数 | 確認・調査中 | 確認・未調査 | 未確認・未調査 |
| 25 | 90 | 29 | 7 | 53 |

(2) その他の地下軍需工場

全般的な建設状況・現状は不明であるが、現在まで10県で17カ所を確認。
一部で調査が進められている。

2. 地下軍用施設

(1) 軍直接使用目的の地下施設

- * 陸軍－長野県松代、東京都浅川、岐阜県平牧、大阪府高槻、福岡県山家など。
- * 海軍－各海軍工廠、神奈川県日吉台、太平洋諸島の地下施設など。

(2) 「本土決戦」用の地下施設。

- * 武器、弾薬、燃料、食料、医薬品その他の軍需物資の貯蔵庫。
- * 司令部、通信基地－北海道札幌、兵庫県甲陽園、関西学院グラウンド地下、埼玉県比企など。
- * 航空基地・陸用特攻基地の地下施設－香川県託間町、兵庫県鷺野など。
- * 水上・水中用特攻兵器の基地・格納壕。
 - ・「蛟龍」－香川県小豆島、京都府舞鶴その他。
 - ・「海龍」－高知県宿毛、徳島県小松島その他。

- ・「回天」－東京都八丈島、三重県鳥羽その他。
- ・「震洋」－日本国内の太平洋岸各地と濟州島、台湾、海南島その他。

3. 防 空 壕 空襲時に人が避難するための地下壕。

II この一年間に新たに確認された地下工場・地下軍用施設

1. 地下軍需工場－◆千葉県富津市の第二海軍航空廠地下工場。
 ◆千葉県大網町の日立航空機地下工場。
 ◆富山県大山町の不二越地下工場。
 ◆岡山県玉野市の玉野造船地下工場。
 ◆兵庫県三田市の大阪造兵廠地下工場。
 ◆兵庫県姫路市の須槍航空兵器地下工場。
2. 地下軍用施設－◆名古屋市天白区の横須賀海軍施設部の地下施設。
 ◆大阪市天王寺区の陸軍船舶通信隊の地下施設。。
 ◆大阪府岬町、伊豆諸島八丈島の「回天」関連地下施設。
 ◆千葉県館山市、高知県土佐市の「震洋」格納壕。
 ◆香川県小豆島の「蛟龍」関連地下施設。
 ◆香川県託麻町の海軍航空基地地下施設。

III 調査研究と保存運動の輪を全国的に大きく広げよう

1. 調査研究を通じて埋められた朝鮮人の歴史を掘り起こそう。
 - * 地下工場、地下軍用施設は多くの朝鮮人の強制労働が行なわれた現場であった。
 - * また日本の敗北を察知して集まった朝鮮人集団がいた場所であった。
2. 資料の発掘と行政・企業に対する情報公開を求める活動、体験者や関係者の証言収集を進めよう。
3. そのための全国的なネットワークを目指して経験交流、情報交換を進めよう。
4. 保存運動を連携して積極的に広げよう。

浅川地下壕の掘削と朝鮮人労働者について

八王子の地下壕問題を考える会

斉藤 勉

東京の郊外、八王子市高尾町、初沢町（旧・浅川町）に1944年9月から敗戦まで掘られた地下壕は長野県の松代大本営より先に工事が始まり、完成した部分の中島飛行機武蔵製作所の地下工場として使われた。

地下壕として、また地下工場として全国有数の規模をもつこの浅川の地下壕の掘削を運輸通信省から請け負ったのは佐藤工業と大倉土木（現・大成建設）である。そのもとでは多数の朝鮮人労働者が掘削に従事した。その概要は次の通りである。

佐藤工業

佐藤工業は幕末に富山で作られた「佐藤組」に始まる。土木、建設の中でもトンネル掘削を中心に発展してきた会社である。

この工事には富山県黒部川第三発電所の「高熱隧道」工事に従事した約500名の朝鮮人労働者（家族を含めて約1500名）があたった。二ヶ所に飯場が作られ、あわせて30棟ほどの「住宅」が建てられた。彼らは8名（日本人2名、朝鮮人6名）の親方に率いられ、鑿岩機を使った発破工法で、三ヶ所にある地下壕のうち二ヶ所のほとんどを掘削した（他は熱海にあった通称「トンネル学校」の生徒が掘っている）。

大倉土木

大倉土木がこの工事に加わったのは1945年4月からで、残る一ヶ所の掘削にあたった。下請けには池田組などがあり、2名の親方に率いられた約100名の単身の朝鮮人が静岡県の日本坂トンネル作業所から送り込まれた。

その他

掘削以外にも地下工場周辺の引き込み線などの建設工事にも青木組配下の朝鮮人「約500名」が加わった。

朝鮮人の労働について

1、この工事に従事した朝鮮人労働者は約1000名（家族を含めて約2000名）ほどと考えられる。日本の植民地政策のもと、日本に渡航せざるを得なかった人々がおおかったと思われる。

2、旧浅川町役場文書の中にはこの工事にかかわった朝鮮人労働者関係だけの文書はない（8月5日の空襲で役場が消失したことも一因）。

3、朝鮮から強制的に直接この現場に連行されたと思われる朝鮮人は今までのところ確認されていない。

4、工事中の死者は聞き書きなどからは数人程度とおもわれる（斉藤が確認したのは1人）。ただ近くの寺の過去帳には成人男性6名と乳幼児の死者の名前が記されている。

5、朝鮮人労働者は親方によってまとめられており、佐藤工業では親方1人につきほぼ1本の抗道の掘削をまかせている。

6、佐藤工業によって短期間に掘られた部分の地下壕はほぼ設計図どおりであり、掘削の状態も非常によい。これに対し大倉土木の方は設計図以外にも抗道があり、掘りかけて失敗したと思われる所も多く見られる。佐藤工業配下の親方と朝鮮人の掘削技術が優れていたことがうかがわれる。

＊詳細は拙著「地下秘密工場―中島飛行機浅川工場」（のんびる舎刊）参照

地下壕保存の今後の課題

現在、三ヶ所ある地下壕のうち一ヶ所は私立高校の建設で破壊されようとしている。一方、八王子市議会は本会が出した「浅川大地下壕の保存と平和資料館建設に関する請願」を今年の3月に採択している。地下壕の保存が議会で採択されたのは全国でも例がないと思われる。今後、会としては八王子市がどのように請願の内容を実現させていくか見守るとともに、私立高校の建設をやめさせ地下壕全体の総合的な保存はかっしていきたい。ただ、次のような課題も抱えている。

1、地下壕の上に住宅があり陥没の危険がある。そこの埋め戻しは必要とされている。

2、地下権の所有についてはっきりしないところが多く、管理者が特定できない。

3、地下壕の周辺には住宅が多くなり、保存運動に理解が得られないこともある。また、存在が知られるようになると、こどもの遊び場となり事故の危険が出てくる。

高槻「タチソトンネル群」保存の会の取り組みと今後の課題

高槻「タチソ」保存の会 金 博明

1、高槻タチソトンネル群の概要

旧日本軍は、1944年秋、高槻市成合北部の山間部に秘密地下トンネルを作ることを決定した。

当初は、地下倉庫として利用される予定であったが、途中、川崎航空機の疎開上場に変更され、さらに、戦局が本土決戦を迎える状況になると、軍需基地としての役割を担うようになったと思われる。

タチソトンネル群は第一トンネル群、第二トンネル群、第三トンネル群、その他の未調査のトンネル群に分けられ、証言によると、敗戦当時、成合付近の山はそこら中にトンネルが掘られていたという。

第一トンネル群は、戦闘機のエンジンを作る地下工場として作られ、縦3～4m、よこ4～5m、奥行100～150mのトンネルが碁盤の目のように掘られていた。終戦時には、セメントが巻かれ、旋盤機等の機械類も設置されていたという。第二トンネル群などのトンネル群は、45年の6月から掘られ、現在約20本の素堀のトンネルが現存している。これらのトンネルは本土決戦に向けて陸軍が軍需倉庫に利用する予定だったといわれている。

この作業に当たったのは、学徒動員された学生や、陸軍将校などもいたが、殆どが朝鮮人だった。米国戦略爆撃調査団の報告書によると3500人の朝鮮人労働者が工事に従事していたということだったが、証言によると2～3万の朝鮮人がタチソ工事に関係したという。強制連行で連れてこられた朝鮮人もいたが、徴用できた朝鮮人とは違った扱いをされ、殆ど隔離された状態であったという。

現在、タチソトンネルのある成合には、在日韓国・朝鮮人の集落があり、最近まで生活環境が劣悪であった。

2、これまでの取り組みの経過

これまでタチソの調査活動を行ってきた、高槻むくげの会と、戦争の記録を残す高槻市民の会が中心となり、1990年4月、超党派の市民運動としてタチソ保存の会が結成され、現在に至っている。

高槻むくげの会は、在日韓国・朝鮮人青年の団体で、民族差別の実態を知り闘うため自分の親の生い立ちの聞き取りをし、タチソを学んできた。

戦争の記録を残す高槻市民の会は、高槻に残っている戦争の傷跡を掘り起すことで戦争とは何であったのかを記録して残そうとした日本人主体の団体である。

タチソ保存の会の活動の柱は、日本の戦争責任の追及と朝鮮人の強制労働の実態の調査、それに在日韓国朝鮮人と日本人とがともにタチソ保存のために行動する意味をおたがい考えることであると思う。

そのため、現地調査会の実施、ニュースの発行、対府市交渉、各種団体との交流などをするとともに、当時の資料の発掘活動を行っている。

最近、タチソ保存の会は、高槻市に、当時の強制労働の実態に迫るための資料として、タチソ工事のされていた期間に何人の朝鮮人が亡くなられ、どういう死因だったかを埋火葬許可書で調べてくれるよう要請した。

それによると、タチソ工事のため死亡したと考えられる人が多数いたことがわかった。（資料）

又、成合にあるお寺に安置されていた引き取り手のない朝鮮人の位牌、遺骨についても調査中で、タチソ保存の会では、該当者の本籍地を調べ、親族の意向を聞くなかでその位牌、遺骨を最も良い形で故郷の地に返還するつもりである。

3、課題

戦後46年がたち、第一トンネル群で当時の様子を見ることが出来るのは、唯一、1つだけである。これは、トンネルのある山が採石工場になったことと、トンネルが時代に堪えられなかったことによる。すべてのトンネルが埋まってしまうのも時間の問題だという人もいる。

大阪府、高槻市に、このトンネルを現状保存するよう要請しているのだが、責任逃れをするだけで、まともにこの問題に取り組もうとする気配すらない。この間行政交渉してきたのだが、行政当局にどれだけ責任を取らせるのか、考えていかなければならない。

又、現地見学会を希望があるかぎり行ってきたが、本当にこのトンネル群を、保存したいと思うのなら、見学した人たちにももっと真剣に保存の取り組みに参加してもらいたいと思う。

MEMO

第6分科会

(軍人・軍属・従軍慰安婦)

司会 金英達、金静美

〈この分科会のねらい〉

第2次大戦中の朝鮮人に対する戦争への強制的動員(戦時動員)については、炭鉱・鉱山・土木建設工事・軍需工場などへの労務動員に関しては精力的に調査されてきましたが、軍人・軍属・従軍慰安婦などのいわゆる軍務動員に関してはまだ十分に調べられていません。

そこで、特にこの分科会を設け、朝鮮人の志願兵・徴兵、軍属への徴用、捕虜監視員と戦犯の問題、従軍慰安婦の実態などについて、現在までに明らかになっている歴史的事実を整理することを中心に知識・情報の交換をし、これからの調査研究の方向性をさぐっていきます。

〈プログラム〉

- ① 朝鮮人戦時兵力動員の基本資料と従軍慰安婦の文献リストの発表
……分科会司会者より

- ※② 韓国・朝鮮人B C級戦犯と日本の戦争責任・戦後責任
……田口裕史(韓国・朝鮮人戦犯を支える会)

- ③ 体験者のお話
……元海軍特別志願兵、元B C級戦犯(予定)

- ④ 研究者からの会場内発言

- ※⑤ 朝鮮人従軍慰安婦の実態について
……方清子(在日韓国民民主女性会)

- ※⑥ 朝鮮人従軍慰安婦問題を考える
……朴美津子(従軍慰安婦問題を考える会)

韓国・朝鮮人 B C 級戦犯と

日本の戦争責任・戦後責任

「日本の戦争責任を肩代わりさせられた韓国・朝鮮人 B C 級戦犯を支える会」

1942年5月、日本は、俘虜収容所での監視要員として朝鮮人を動員することを決定。2年契約の軍属傭人ということで、京城日報などの大新聞で大々的に宣伝。志願者を募る「募集」ではあったが、いうまでもなく、実際は強制的・半強制的なものであった。

「応募者」は、42年6月から2ヶ月間の訓練期間を経て、同年8月、タイ・マレー・ジャワなどの各俘虜収容所に配属された。

収容所では、食料や医薬品が不足した上の重労働で多くの連合軍俘虜が死亡した。

戦後、アジア各地で行われた連合国による B C 級戦争裁判では、148名の朝鮮人が有罪判決を受ける（うち、23名が死刑判決）。しかし、裁判自体が不十分で不当性をもっており、起訴内容も、実際の直接的な俘虜虐待ではなく、食料や医薬品の不足などといったものがほとんどだった。

後、東京のスガモ・プリズンへ移された朝鮮人「戦犯」たちは、サンフランシスコ講和条約によって日本国籍を離脱させられるが、それでも刑の執行は続けられる。一方、釈放になった後には、日本国籍を有しないなどの理由で援護政策からは排除され、異国の地日本での暮らしは辛く厳しいものとならざるを得なかった。

朝鮮人「戦犯」たちは、過去30年間にわたり、日本政府に対して補償を要求し続けているが、日本政府はそれを門前払いしてきている。刑死者の遺骨送還に関しても、日本政府は誠意ある態度をとらず、当事者たちが朝鮮半島へ渡り、遺族を見つけて遺骨を送り還している状態であって、現在もなお数体が東京に残っている。

証言—李鶴来さんの場合

戦犯になった者のうち、遺族世帯13世帯を含め49世帯が日本に住んでいる。我々は祖国に帰りたいが、仮釈放で帰れず、親の死にめにも合えない寂しい思いをしてきた。

泰緬鉄道のヒントクで捕虜管理の勤務をした。朝鮮人軍属6名でイギリス人、オランダ人、オーストラリア人捕虜500名を連れ、鉄道建設に協力。

自分は18才で、いろいろなことが良く分からず、軍に従って一生懸命やるという旺盛な考えしかなかった。

習慣や言語などの異なる捕虜を管理するのは大変なこと。加えて、食料、医薬品、衣服などがないまま、日夜突貫作業の重労働。捕虜は病気になっても医療を受けられず、栄養も足りない。多くが死んだ。

病人を強制的に労働させて大勢の者を死なせたということで起訴されたが、自分はたが一番下位の軍属傭人だった。後、起訴は一端却下され釈放されたが、再逮捕。チャンギ刑務所に戻され死刑判決を受ける。証人のいない書類裁判。

その後8ヶ月死刑房生活をするが、とても長いものだった。外では皆が朝鮮独立を喜んでいるのに、自分は戦犯として殺される。そう思うと、いてもたってもいられない心情だった。日本人なら自分の国のために尽くして死ぬのだと諦めをつくだろうが、自分たちは何のため誰のために死ぬのか納得できなかった。また、自分が戦犯になったことで国の家族が非常に辛い思いをするのではないかと気掛かりだった。

8ヶ月後、20年の減刑になる。この間、14名の仲間が死んだ。1951年、スガモ・プリズンに移管される。サンフランシスコ条約発効後、国籍離脱され、韓国籍になる。「日本政府は韓国籍の我々を拘禁する権利はない」という釈放要求の訴えを起こすが、却下される。一方、留守家族援護などの対象からは（留守家族は日本国内に居住するものに限ると定められていたため）排除された。

釈放後も補償はなく、家もないなど生活は大変だった。そこで、出所拒否をしたり、また、自殺者も数名出た。そのような状況の中で、韓国出身戦犯者同進会を結成（1955年）して補償問題を政府に訴えて行く。

昭和50年代に入って、死刑者の遺骨送還ひとつに絞って運動を進めた。1979年にその請願が採択され、同年11月に送還。現在5体残っており、1体は「南」、4体は「北」。「北」は遺族捜しがままならないが、昨年韓国に行き2人の遺族を捜し出した。

補償請求に関しては、自分たちが死ぬ前に何らかの結論を出しておきたい。そうでなければ死んだ仲間に申し訳が立たない。

朝鮮人従軍慰安婦

在日韓印民主女性会
大阪本部

1. 「朝鮮人従軍慰安婦」の歴史と実態

① 歴史的背景

② 朝鮮人慰安婦の発起

日本の東北地方を中心に「娘買い」が始まる

↓
「植民地朝鮮」にその市場を求める

③ 慰安所の定着化

・1932 「上海事変」以降、アジア各地から売春業者が集中
軍隊のいるところには必ず慰安所が設置

・1938 日本軍司令部、直属の慰安所を開設（大量殺りくと
強姦の抑止策）

④ 慰安婦の実態

◆ 悲劇の処遇

◆ 慰安婦の足跡 — 日本各地・マウ・ニューギニア

⑤ 日本の敗戦と慰安婦の末路

・対戦勝国への送還

・現地におきざり

・謀殺

⑥ まとめ

2. 葬りさられた歴史に光を!

— 慰安婦問題をめぐる葛藤 —

- ・ 偏激的伝統

- ・ 日本政府のいんぺい策動

— 浮かびあがった従軍慰安婦問題 —

- ・ 梨花女子大 尹貞玉教授らで日本・韓国・ニューギニアを訪ね、真相究明のための資料集収

- ・ キーセン観光問題

- ・ 米軍基地周辺の売春問題

90.5. 梨花女大大学院生の臨時総会

- 1). 慰安婦問題の世論化

- 2). 大統領訪日時に声明発表

- 3). 研究作業開始

90.5.18

韓日女性団体連合・韓日女性教会連合・女子大生代表者
協議会 合同記者会見

< 声 明 >

— 日本政府の対応 —

90.1 海部首相訪韓

5. 盧大統領訪日

6.6 参院予算委での発言

「従軍慰安婦は民間業者が連れて歩いたもので、徴用
といふ関係ない」

10.27. 韓日教会女性連合会代表ら訪日

- ・ 沖縄で慰霊祭

- ・ 海部首相あて公開書簡

37団体による「挺身隊問題に関する共同対策協議会」
を結成

91.5.30 東京と神戸で南北・日本女性による「アジアの平和と

~2. 女性の役割」シンポジウム

— 従軍慰安婦問題について討議 —

朝鮮人従軍慰安婦問題を考える

1991. 6. 16

1. 歴史的経緯

「従軍慰安婦」は皇軍によって創りだされた、世界に類をみない制度といわれている

◆皇軍が「従軍慰安婦制度」をつくった理由

- I 日本人兵士の不平・不満をそらし、皇軍の忠実な兵士に仕立てあげるため
「軍隊での慰安婦は将兵の士気を鼓舞せしめ、聖戦完遂上、欠くべからざる兵器である」
- II 暴行・強姦のはて、全兵士の一割以上が顕在性病患者（戦死者より多い）となり、兵力減少の恐れがでてきた。
- III 朝鮮民族衰亡策の一つ
 - ①朝鮮の青少年を兵士に仕立てて戦場で使役する（軍人・軍属）
 - ②朝鮮の青壮年を内地に連行し、炭坑労働および軍需工場その他に分散して使役する（強制連行）
 - ③朝鮮の未婚女子を軍隊の”特殊任務”にあてる（従軍慰安婦）

◆朝鮮民族に対する滅亡（骨抜き）プラン

- 1907年 初代韓国統監伊藤博文
まず李王家の血統を崩すことに着手
- 1919年までの「朝鮮民族早期滅亡」政策
梅毒政策
阿片吸引助長政策
遊廓発展政策
- 1919年 3・1運動 以降
露骨な抹殺主義を引っ込め同化政策
- 1937年 日中戦争勃発
上記Ⅲの朝鮮民族衰亡策と侵略戦争計画を結合し、独自の政策として極限まで推し進めた

◆従軍慰安婦制度の発端

- 38年1月末頃 第一号「陸軍娯楽所」開設 上海の楊家宅
百余名の女性（内朝鮮人80余名）
- 背景 南京大虐殺事件 日中戦争の長期化
皇軍の強姦・輪姦がすさまじく、軍隊内で性処理する必要に迫られた

しかし、いつのまにか

「陸軍娯楽所」は「陸軍慰安所」に変わり

売春宿や遊廓がこぞって「慰安所」の看板を上げ始め、軍隊・民間両者が都合のいいように制度化していった

その結果

394 全ての慰安所経営を民間業者に委託し、上海「陸軍慰安所」は廃止になった
管理は軍隊、経営は業者という二者共同体制の完成
売春業者は軍の威光の下に「女子愛国奉仕隊員」と称して、白昼堂々
連行していった

◆従軍慰安婦制度の本格化

- 4 1 年 太平洋戦争勃発により、陸軍・海軍省は売春業者に太平洋全域の
基地に慰安所を開設するよう命令
- 4 3 年 9 月 「女子勤労働員ノ促進ニ関スル件」
- 4 4 年 3 月 「女子挺身隊制度強化方策要項」
- 8 月 「女子挺身隊勤労令」公布
動員された女子挺身隊は、敗戦時 4 7 万 2 0 0 0 人といわれる

従軍慰安婦の正確な数はわからない。それは、
人間としてではなく、軍事物資として扱われたためであり、日本が敗戦時
隠蔽政策をとったため名簿がほとんど残っていないため
「挺身隊」20万人のうち、「従軍慰安婦」は8万人を下らない
(韓国側推計)

以上、簡単に歴史的経緯をみてきたが、多数の女性に命を奪われ、生き残った人も
異国の地でひっそりと生きていかざるをえない状況が今も続いている。

何故なのか？ 問い返すことさえこれまであまりなかった
このことに問題性を感じて考えていきたい

2. 朝鮮人従軍慰安婦問題を考えるにあたって

▲朝鮮人従軍慰安婦問題の本質は

日帝の侵略戦争の三重の被害者であった（今も被害者）ことにある

- ①侵略戦争の被害者 (戦後処理問題)
- ②植民地支配の被害者 (民族差別)
- ③女性差別の被害者 (女性差別)

これら三つの側面からこの問題を論じていかなければならない

▲歴史的教訓を導きだす

なぜ従軍慰安婦という犠牲者を生み出させてしまったのか。
過去の民族運動、女性運動がどうして阻止できなかったのか。
私たちの現在のありように大きな教訓となる

これら本質と教訓を、現在の自分たちに重ねあわせ考えていきたい

| | |
|----------------------------|------------------------------|
| 【主な参考図書一覧】 | |
| 白桦敬子 | 『現代の慰安婦』
(現代史出版会) |
| 川田文子 | 『赤瓦の家』
(筑摩書房) |
| 金一勉 | 『軍隊慰安婦』
(徳間書店) |
| 城田すず子 | 『天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦』
(三一書房) |
| 千田夏光 | 『マリアの賛歌』
(かにた出版部) |
| 長沢健一 | 『漢口慰安所』
(図書出版社) |
| 吉田清治 | 『証言記録・従軍慰安婦、看護婦』
(新人物往来社) |
| 『朝鮮人慰安婦と日本人』
(新人物往来社) | |
| 『私の戦争犯罪―朝鮮人強制連行』
(三一書房) | |
| 『続・従軍慰安婦』
(講談社文庫、三一新書) | |
| 『従軍慰安婦・慶子』
(光文社文庫) | |

MEMO

42

第7分科会

(教育実践)

司会 近藤富男 & 宝塚の教師グループ

〈この分科会のねらい〉

地域の在日朝鮮人・中国人の歴史研究の成果を学校教育や社会教育のなかでとりあげてきた各地の実践をバラエティ豊かに報告していただきます。学校の授業の教材づくり、課外活動としての現地調査、学校行事のなかでの取り組み、地域の社会広報など、具体的な経験のなかでみえてきた問題点について話し合い、どのような方向づけをしていったらよいか討論します。

〈プログラム〉

- ① 北条地下工場と平和教育
……中浜久喜（姫路朝鮮問題研究会）
- ※② 「史実」になれなかった「真実」—協和隊45年目の証言
……青木康嘉（岡山県玉野光南高等学校）
- ※③ 強制連行の足跡を若者とたどる旅
……加藤慶二（強制連行の足跡を若者とたどる旅）
- ※④ 児童文学にとりあげられた「強制連行」
……仲村 修（オリニの会）
- ※⑤ 成合・タチソ、フィールドワーク
……村上 （高槻市立第4中学校）
- ※⑥ 「アンニョンハセヨ」による児童生徒・市民にむけての取り組み
……原田孝一（西宮市教職員組合）
- ※⑦ 「強制連行」の授業を通して
……岡本英徳（奈良県桜井市立初瀬小学校）
- ⑧ 高校生がきりひらいた真の国際連帯の道——亀島山地下工場から
朝鮮人の遺骨返還まで
……花房英利（岡山県倉敷中央高等学校）

「史実」になれなかった「真実」

— 協和隊 45年目の証言 —

No.1

内容の概要

岡山県立玉野光南高等学校は、岡山県下に学科総合型としてのいわゆる「新タイプ校」として誕生したのが1984年(昭和59年)の4月で、普通科・情報電子科・情報処理科・体育科の四科からなり、定員380人を8年前に創立された。現在は、定員が増加して485人となり、生徒数1400人を数えるマンモス校である。生徒は、全県下から集まり、過去4年の進学状況は、東大・京大・阪大をはじめ、毎年国公立大100校名を数え、約75%が進学し、残り情報科・体育科を中心に約25%が就職する。又、スポーツの分野もさかんで、昨年は選抜に野球部が出場し、毎年5〜6種目50〜60人が高校総体や国体に参加する活力ある学校である。

このレポートは、開校3年目に創部した社研部を指導した中で生まれたものである。部員は、3年生2人 2年生3人 1年生2人の計7名である。

この「史実」になれなかった「真実」は、三部から構成されている。第一部は、三井造船に昭和19年9月に強制徴用されて働いた協和隊の実態を明らかにするために、唯一残っていた昭和20年の「産報龍骨」(三井造船の社内報)の「松原豊成」の手記を手がかりに、韓国の有力者に資料を送り、東亚日報に掲載されると、元協和隊員から有力な証言がとどいた。金龍玉氏は今、ロシア・モスクワ郊外に住む。個人的な体験ながら、生々しい証言―暴行、仕事、食生活など―があり、又当時の日本人との交流もかかっていた。又、金龍玉氏は、「松原豊成」ほか、禹奎鎬氏と交友関係があり、現在、ソウルで健在との連絡を受けた。私たちは、禹氏を捜し、私は8月に韓国へ行き、元協和隊副官4人に会って証言を聞き、又、一年生部員佐藤富子は、ロシア・モスクワ郊外へ夏ホームステイに行った際、金龍玉氏に会った、貴重な証言を聞いた。第一部は、こうした記録を新聞記事を中心に、ドキュメント風にまとめあげたものである。第二部は、昭和19年9月に、江原道、咸鏡北道、咸鏡南道から、朝鮮総督府令による、1922年12月2日〜1923年12月1日までに生まれた特別年齢徴用で来た協和隊3500人の実態である。強制連行は、歴史の中に消えた。しかし、その歴史を、いや「真実」を、証言と日本の中にある可能な限りの資料を駆使して、その全体像を明らかにした。第三部は、三井造船の地下軍事工場と人間魚雷蛟龍と副題が示すように、昭和19年暮から春にかけて、三井造船は、地下軍事工場を協和隊員を使って掘削した。そこでは、資材の不足と戦局悪化へのおそれから、4人乗りの特殊潜航艇を30数台この地下軍事工場に製造した。この消された歴史を当時地下軍事工場に働いた元工員、学徒動員らの証言で明らかにした。

このレポートは、地域の歴史を高校生と考える中で、「史実」になれなかった「真実」を明らかにし、日本とアジアの日本と韓国・朝鮮との交流のあり方を提起した。そして、このレポートを土台に、真の国際化を問う。

岡山県立玉野光南高等学校 敬詢

社会問題研究部 顧問

青木 康嘉

「史実」になれなかった「真実」

— 高校生が 結ぶ 日韓交流の輪 —

NO.2

- ① 協和隊関係年表、機々の取組み経過を年表としてまとめる。
- ② 協和隊本部副官 高至鶴^{ウエスラ}氏と玉野市を歩き、field workし、遺骨、埋葬墓など調査研究したものをまとめる。そして、1990年9月24日、サンライフ玉野でひらかれた シンポジウム (80名出席) の全記録を再現し、45年目の証言としてまとめる。
- ③ 朝日・読売、毎日、中国・山陽新聞や共同通信の各地新聞、NHK、OHKのTV報道、韓国での東洋日報、江原日報、(日本語版付)を紹介する。
- ④ NHK 青春ムービーで 1991年1月15日 特別番組に出演した本校社研部部長 佐藤良子(2年)の原稿で、その日の写真などをまとめる。
- ⑤ ロアンゼルス在住の協和隊元副官 金龍五^{キムニョウゴ}氏と玉野に招き、高氏の全体像とは違う、隊内での暴行、差別の実態を明らかに証言してくれたものをまとめる。
- ⑥ 昭和19年9月～1950年10月までに死亡した協和隊員は16名。名前、住所、身元引受人などが玉野市の埋葬許可書によって解明したが、引き続き遺族などを訪ね、関係者の証言をまとめる。
- ⑦ 1991年8月14日～19日まに、韓国を訪問し、江原道の元春川市長 朴建周氏(元協和隊副官)ら、元協和隊員が同席してくれ、玉野会へ参加し、又、取材を通じて研究調査したものをまとめる。

玉野光南高校 社研部では、昨年に続き、「史実」になれなかった「真実」の第2弾の出版を計画している。上記に書いているように、協和隊関係者を2回にわたって玉野へまねき、証言シンポジウムをひいたことや、今夏、8月に韓国を訪問して、協和隊関係者の証言を聞いたたり、遺族を訪ねたり、墓参を計画している。そこを報告したい。

岡山県立玉野光南高等学校

社 研 部 顧問

青木 康 嘉

「強制連行の足跡を若者とたどる旅」

趣旨（目的・性格）

かつて日本帝国主義によって強制連行され、炭坑労働・ダム工事など苛酷な労働を強いられた韓国人・朝鮮人の強制連行の足跡の一部を実地にたどることで、歴史および在日韓国人・朝鮮人と日本人がかかえている今日の問題について、正しい理解を深める学びの旅とする。

- 21世紀を担う若者たちには、約70万人の在日韓国人・朝鮮人が日本に定住を余儀なくされた歴史的事実（日帝の朝鮮侵略と植民地支配、強制連行）を伝え、もはや公教育には期待できない正しい歴史観を養うことができる一つの場とする。
- 在日韓国人・朝鮮人がかかえるさまざまな問題に取り組んできた人たちには、自分たちの在日韓国人・朝鮮人問題への係わり方をとらえなおす場であり、自分たちの問題意識を若い世代へ伝える場として機能させる。

方法（次ページ）

実施

| | 第 1 回 | 第 2 回 | 第 3 回（予定） |
|-----------|---|---|--|
| 期 間 | 89・8・22～8・30 | 90・8・14～8・22 | 91・8・14～8・22(予定) |
| 行 程 | 下関（関釜フェリー）－釜山－慶州－大邱－天安－水原－ソウル－釜山－下関－北九州－筑豊－大牟田－大村－長崎－高島－熊本－阿蘇（各回では上記のうち1～2カ所を除いた全コース） | | |
| 参加
人 員 | 中高生 13名
青年（20才代） 17
一般 33
計 63
（うち在日 8） | 中高生 18
青年 17
一般 28
計 63
（うち在日 12） | 中高生 23
青年 22
一般 18
計 63
〔うち在日 13〕
〔うち韓国人 7〕 |
| 参加費
補助 | 中高生 32000円
青 年 13000円 | 中高生 26000円 | 中高生 36000円 |
| 証 言 | 被強制連行者
中ソ離散家族会会員 | 左に同じ | 左に同じ |
| 交 流 | ・中ソ離散家族会ハ
ルモニとの交流会 | ・左に同じ ・日
韓青年交流会(ソウル) | ・左に同じ
・左に同じ |
| 集会
参加 | ・「韓国人・朝鮮人
離散家族に思いをは
せる市民集会」 | ・「中ソ離散家族会」
・「高島炭坑犠牲者
追悼の夕べ」 | ・「中ソ離散家族会」 |

■ 方法

- 旅行社を通さず、手作り企画
 - 中高生への参加者補助カンパ活動
 - 船内・社内学習
 - 中高生への参加者補助カンパ活動
- | | | |
|-----|-----|----------|
| 補助金 | 89年 | 43万5000円 |
| | 90年 | 46万4000円 |
| | 91年 | 82万1000円 |

■ 「たどる旅」の後で開始したこと

1. 「中ソ離散家族会記念館（老人ホーム）建設協力募金」（サハリン募金）

90年8月15日 360万ウォン（約77万円）

91年8月15日 360万ウォン（約77万円）

2. 北九州市に「北九州・若松の小田山墓地に＜歴史を心に刻む碑＞の
建設申し入れ」

89年 月より数回にわたる交渉

90年12月 北九州市は＜慰霊碑＞を建立

3. 事前一泊学習会（7月） 事後一泊学習会（12月）

■ 刊行物

パンフレット 「強制連行の足跡を若者とたどる旅」通巻11号

記録文集 第1回「強制連行の足跡を若者とたどる旅」89年版（品切れ）

第2回「強制連行の足跡を若者とたどる旅」90年版（600円）

ビデオ 第1回「強制連行の足跡を若者とたどる旅」（89年）韓国編
" (89年）国内編
各2500円

1991年7月27日

北九州市小倉北区砂津1-4-11

「強制連行の足跡を若者とたどる旅」代表 加藤慶二

TEL 093-521-2073

児童文学にとりあげられた「強制連行」

……仲村 修（オリニの会）

1. 前提としての戦争児童文学

「反戦児童文学」……戦争による日本国内の被害の痛ましさをえがくことによって平和の尊さをうたえようとするもの。戦後の反戦運動（「教え子を再び戦場に送るな」）の盛り上がりのなかから生まれ、戦争児童文学の大部分をしめる。

「反侵略児童文学」……アジア諸国への侵略（植民地支配・十五年戦争など）という日本の加害の非人間性をえがくことによって侵略の不当性をうたえようとする。おもに60年代半ばから。／代表作／『ヤン』（前川康男）『びいちゃんしゅん』（乙骨淑子）『むくげとモーゼル』（しかたしん）『二つの国の物語』（赤木由子）『消えた国旗』（斉藤尚子）など

2. 「強制連行児童文学」

強制連行・強制労働は内なるアジア侵略であった。したがって「強制連行児童文学」はその理念からすると「反侵略児童文学」の範疇にふくめることができる。強制連行・強制労働の調査の進展（『朝鮮人強制連行の記録』の刊行が65年）と「反侵略児童文学」の勃興のなかに胎児した。

3. 各作品の特徴

- ① 戦後初めて強制連行をあつかった点が新しい。強制連行の現場・アンのその後がかけていない。
- ② 強制連行の実態を的確にえがき迫力があるが、作品のねらいはボタ山の一代記をかくことにあった。
- ③ 強制労働の実態や、中国人たちに対してとった村人たちのとった態度をリアルにえがいている。中国人の望郷の思いに関しては表現力不足。
- ④ 児童文学者が強制労働を本格的に実態調査した点に新しさと説得力がある。
- ⑤ アジアの犠牲（トンネル）のうえに日本の繁栄（高級住宅街）があるという現代日本の姿を的確にとらえている。推理小説仕立ての巧みさで読者を引きつけるが、作品全体としては強制連行の部分が浮いてしまった。初めてハングルが登場。
- ⑥ 推理小説仕立て。謎解きの解決と、犠牲者のための慰霊塔をたてる形で作品は終わってしまい、歴史的背景や今日の意味の追及への目配りを欠いている。
- ⑦ 展開が巧みで読者を引きつける。兄弟愛の深さは逆に軍国主義の罪過の深さを浮き彫りにしている。動的な場面では文体がマッチしなくなる。朝鮮の農村がかけていない。
- ⑧ 室蘭の空襲が迫力あり。主人公がマサコとヨンホの二人であるため、ヨンホがえがききれず二人の出会いと失踪も作為を感じさせる。
- ⑨ 混血作家ならではの作品。心理描写が行き届いている。民族の心もよく表現しており、ある意味で日本人作家の限界性も感じさせる。
- ⑩ 強制連行をえがいたというよりは、『キムの十字架』の劇作りを通して民族差別を乗り越えるという点に力点がおかれている。
- ⑪ その地方の作家でない作家が取材して書いたところに新しさがある。

4. まとめ

- ・地下トンネルや炭鉱の数からして「強制連行児童文学」はさらに書かれるべきである。
- ・30代40代の書き手たちが地域をこえてこの文学に参加すべきである。
- ・植民地支配・侵略戦争をふくめ、重いテーマを子どもたちに伝える方法論に関して、技法、展開上の多様さや工夫が求められる。
- ・連行された人びとのもつ民族の特徴や風俗習慣、さらにはその故国の人びと自然風土も書ける技量が今後要求される。（作家の国際性の獲得の問題）

強制連行をあつかった児童文学作品一覧表

| 作 品 名 | 作 者 | 発行年 | 出 版 社 | 作 品 の 舞 台 |
|--|--------|-----|-------|-------------------|
| ① 北風は芽を | 筒井 敬介 | 51 | 泰光堂 | 北海道中央部の炭鉱 |
| 強制連行され現場から逃亡した朝鮮人少年アンと、彼をあくまでかくまう正作一家の心の交流をえがく。アンは解放後も祖国に帰りたくないと言う。〈短篇〉〈再版『北風は芽を』童心社70〉 | | | | |
| ② ズリ山 | 若林 勝 | 70 | 牧書店 | 北海道の赤平炭鉱 |
| ズリ山（ボタ山）がかたる炭鉱と町の歴史。42年ズリ山の隣の雑木林で朝鮮の若者チョン・リュオが自殺した。足下には「ニッポンジンゲダモノ」と赤い血でかかれた古新聞があった。〈絶版〉 | | | | |
| ③ 化石山 | 岸 武雄 | 73 | 偕成社 | 岐阜県瑞浪市近郷の戸狩地下トンネル |
| 地下飛行機工場建設のために中国人捕虜が330人戸狩に送りこまれた。18歳のワンや八路軍将校だった李と地元の少年周助や京平の間のひそかな人間的な心の交流を描く。〈絶版〉 | | | | |
| ④ 悲しみの砦 | 和田 登 | 77 | 岩崎書店 | 長野市松代地下大本営地下壕 |
| 44年11月から始まった松代地下大本営の工事に連行された朝鮮人（推定7千人）たちの足跡を地元作家が丹念に聞き取り調査して書き上げたルポ。〈フォア文庫版あり〉 | | | | |
| ⑤ SOS地底より | 伊東 信 | 79 | ポプラ社 | 東京日野市の高級住宅地下のトンネル |
| 高級住宅地でのトンネル発見報道にヒントをえた創作。ペットのリスを殺された良太たちのドラギャン（ドラ猫退治）作戦は、今は麻薬のアジトになっている地下軍需トンネルを発見してしまう。 | | | | |
| ⑥ たつやとなぞの骨 | 高橋 昭 | 79 | 岩崎書店 | 岩手県一戸町の発電所隧道工事 |
| スギ土手から掘り出した不思議な人骨の謎をたつやたちはこっそりと追跡する。それは結局13（大正2）年ごろのきつい隧道工事での朝鮮人犠牲者のものだとなる。 | | | | |
| ⑦ キムの十字架 | 和田 登 | 83 | ほるぷ出版 | 長野市松代地下大本営地下壕 |
| 松代で強制労働させられた兄キムジェハは、弟が隣の現場で働いていたことを解放後初めて知り必死に行く方を捜すが、弟はすでに犠牲的な死をとげていた。兄は弟のために壕の岩肌に十字をきさむ。 | | | | |
| ⑧ いたどり谷に
きえたふたり | 富盛 菊枝 | 85 | 太平出版 | 北海道室蘭の製鉄所 |
| 大好きな兄の出征以来気の狂ったマサコは、艦砲射撃下の製鉄所から脱走した朝鮮人少年（キムヨンホ・14才）を兄だと信じる。二人は近くのいたどり谷に姿をけたまま生死が知れなかった。 | | | | |
| ⑨ スウボンの笛 | 大坪 かず子 | 85 | ほるぷ出版 | 長野県松本市里山辺地下トンネル |
| 朝鮮人を父にもつ少女洋子の眼がとらえた、父の祖国と戦争と強制連行と朝鮮人学徒出陣。洋子の心は朝鮮人の心と軍国少女の心の間を大きくゆれ苦しみながらも豊かにたくましく成長してゆく。 | | | | |
| ⑩ アンネのばら
咲くとき | 和田 登 | 89 | 岩崎書店 | 長野市松代地下大本営地下壕 |
| 『キムの十字架』を演劇化した中学校の実践をモデルにした作品。姉が朝鮮人と結婚したことから朝鮮人に偏見をもつツッパリの健次は佐々木先生や絵里などにはげまされついに自ら壁を破る。 | | | | |
| ⑪ 北の逃亡者 | たかしよいち | 89 | 理論社 | 北海道 |
| 敗戦前に炭鉱を脱走し、敗戦を知らず14年間も北海道で逃亡生活をした実在の中国人劉連人（リュウリエンレン）さんをモデルにした作品。 | | | | |

成合・タチソ フィールドワーク

高槻第四中学校

【1】フィールドワークの目的・ねらい

- ① 様々な反差別の取り組みをすすめている地域や場所に出かけていき、差別をなくするために運動している人の生活や思いを知ること。
- ② 反差別の取り組みをすることにより、連帯の意義と喜びを感じとり、以後の人権学習につなげていくこと。

【2】実施方法（資料1 参照）

- ① 2年生の各クラスを5班にわけ、5か所に別れてフィールドワーク・聞き取りを行い、後日、それぞれが行ったところについて交流をする。
- ② 生徒会執行部、代議員会、部落研、手話サークルを中心に実行委員会をつくり生徒の主体的な動きをつくる。実行委員会、班長会が中心となって事前学習、下見、当日の運営、事後の報告会などを行っていく。

【4】成合・タチソのフィールドワーク

*成合実行委員会の様子

第1回実行委員会で顔合わせをしている時は、何が始まるのか不安そうであった。「成合」という高槻の北の方に在日韓国・朝鮮人が集まって暮らしている集落があること、そのすぐ近くの山の中に「タチソ」と呼ばれるトンネルが残っていることを簡単に説明した。そして、フィールドワークに向けて事前にどんな学習会を計画しようかと話し合った。そして、①何でその地域に集まって暮らすようになったのか、②そこで暮らしている中学生が学校でどんな気持ちでどんな活動をしているのか、③「タチソ」って何か、を知っていく学習会にしていこうと決めた。その話し合いの中で実行委員は、各クラスから選ばれた代表であること、自分たちで進めていかなければならないという自覚や、フィールドワークを成功させたいという意識と期待感を持ち始めた。そして、役割を決めて何回も読み合わせをしたり、リハーサルをくりかえしていった。下見の日はひどい大雨で足元が悪かったが、トンネルの存在を確かな実感として感じていったようだった。壁をそっとさわってみた

り、トンネルの中から見えた外の景色やためいきなど、子どもたちの感想は深く、班員に語るものがいっぱいあった。

フィールドワークの当日は、かんかん照りの暑さの中での見学であった。地区集会所では、この地区でも子ども会活動があること、トンネルの保存のための運動や反差別の運動があることを聞いた。部屋にはあってあったハンゲル文字を珍しそうに見ている子どももいた。トンネルの中では、冷たい空気がただよふのを感じながら、韓（ハン）さんの話を聞いた。韓さんの話は、小学校時代の差別体験が子どもたちに深く印象をあたえたようで、「日本人との出会いが差別との出会い」という言葉に心をいためていた子どももいた。中学時代にサッカー部だったという話に親しみを感じている子もいた。韓さんの話の最後に、「在日韓国・朝鮮人のために何かをしようというのではなく、自分たちの仲間関係を見直してほしい。いやがらせやいじめがないか、困っている友達もそばにいないか」と、しめくくられた。韓さんの本名を名のらうとする時の思いを、自分の立場宣言に重ねて受けとめていた子どももいた。自分たちの仲間関係に力の論理があることが課題であると受けとめた子どももいた。

【5】フィールドワークの総括とその後の動き

実際に自分の体を動かして成合に行き、タチソの中にたち、韓さんの話しを聞いたことは、子どもたちにとって学校での学習では得られない貴重なものであったと思う。韓さんの話から、在日韓国・朝鮮人の人々の思いを知り、差別への怒りを感じた子（感想文1）、自分の部落民宣言と重ね連帯の意識をもった子（感想文2）、タチソの保存運動について考え、行動しようとしていった子（感想文3～5）、自分の差別意識やクラスの仲間関係について考えた子（感想文6）など、「タチソ」を通して多くの子が、在日韓国・朝鮮人差別を自分にとらえ返し、自分や周りをつめるようになった。

6月27日に各クラスで行われたフィールドワーク報告会（保護者参観、教師も自由参観）でも、成合グループの発表はていねいでわかりやすく、行った子どもたちが感じてきた思いが多くの子どもたちに伝わったと思う。保護者の反応も非常に良かった。

（おまじり：4頁分の資料をレジメ用に実行委員会で2頁分に短縮しました）

西宮教組…………「アンニョンハセヨ」による児童生徒・市民 にむけての取り組み 鳴尾南中（原田孝一）

1. すべては教研から始まった

5年前の支部教研で平和と民族の分科会に私たちは、間近かに迫った卒業式の日の丸問題と、式のスタイルを3年生と父母を対面させる案を持って出席していました。当時の西宮は、「国際化」の名のもとに帰国児童生徒の教育に力を入れ始めており、教研レポートにも、「国際化」の波が押し寄せていました。

私たちも、日の丸を論議する際に在日韓国・朝鮮人の存在を考えていたのですが、足もとの国際理解という視点が欠けていたために西宮の国際化に何も意見が言えなかったのです。

そして、毎年、市教委がまとめる「帰国子女教育研究のあゆみ」を読んでもみると、帰国児童生徒から異文化を学ぶのではなく、彼らを日本の型枠に無理にあてはめる苦勞話がつづられているだけで、型枠を崩さない日本のいや、西宮の姿がありました。これでは、西宮に住む韓国・朝鮮人が2つの名前で生きていかざるを得ない状況を学校が、いや私たちが生み出しているのではないかと教研のたびに考えるようになりました。

2. 西教組を動かそう

1989年2月の定期大会で下記の修正案を提出し、西教組は受け入れました。

在日朝鮮・韓国人教育にさらに積極的に取り組んでいきます。

- ① 在日朝鮮・韓国人教育をさらに前進させるため「アンニョンハセヨ」の発行、教育実践の交流等積極的に推し進めます。
- ② 市教委に対して、在日韓国・朝鮮人の児童生徒が民族的誇りの持てるような教育をめざす「在日韓国・朝鮮人児童生徒らへの教育基本方針」制定を積極的に働きかけていきます。
- ③ 「在日韓国・朝鮮人教育に関する学習会」等を今後も継続的に開催します。

1989年10月21日、生徒用教材「アンニョンハセヨ 1号」の発行。これは西宮市内の児童生徒園児45000人に配布され授業で活用されています。（実物と教員用の資料は後のページを参照）

1990年2月の定期大会では、支部の教育研究委員会の中に在日韓国・朝鮮人教育部を設置する修正案を受け入れて、組織として取り組みを強化していきました。

1990年3月1日、「アンニョンハセヨ 2号」の発行。

1990年4月、教師用指導の手びき書「在日韓国・朝鮮人の子どもたちを受け持つ教員のために」を発行。これは本来、市教委がすることなのですが、在日韓国・朝鮮人に目が向いていない今、不可能なことです。

なお、この手びき書は豊中市同教在日朝鮮人教育部会が1986年に発行した「学級担任のための手びき」を参考にさせていただき西宮の実情に合わせて再編しました。

1990年6月、自主編成講座を開催。

1990年10月21日、「アンニョンハセヨ 3号」の発行。

1990年11月、自主編成講座を開催。

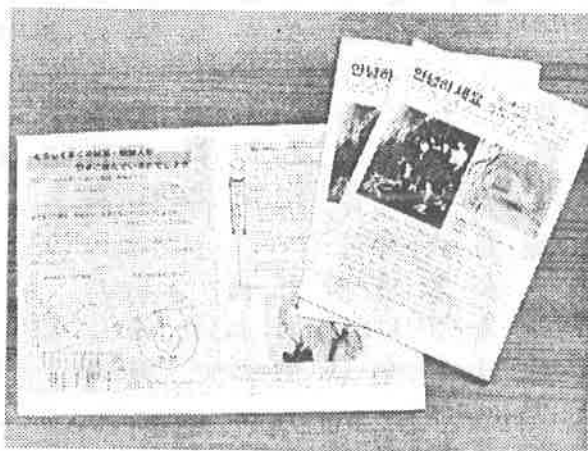
1991年3月1日、「アンニョンハセヨ 4号」の発行。

これらの取り組みに、兵庫高教組阪神支部や西宮在日韓国朝鮮人児童生徒保護者の会そしてその他の市民団体からの助言をいただきました。

神戸 新聞 西宮 (夕刊)

身近な隣人知ろう

1989 11/17
7) 冊子「アンニョンハセヨ」を発行



西宮市内の教師たちの手で作られた冊子
「アンニョンハセヨ」

国際理解の目を 在日朝鮮人にも

西宮の
中学教諭ら

「国際理解教育は、まず身（に）ち（は）」在日韓国・朝鮮人
近な隣国を知ることから」と、
西宮市内の中学校教諭らが開
冊子「アンニョンハセヨ（こん）で始まった兵庫県教育研究集

会で発表する。冊子はすでに、
市内の小、中学生に配ってい
るが、自主教材として使う教
諭もあり、兵庫県教組は「こ
うした教材が、現場の教諭の
手で発行されたのは初めて」
と関心を示している。

冊子は西宮市教組の発行
で、B5判、六六、六万部。
朝鮮人の強制労働でつくられ
た同市甲陽園の地下壕（こう）
の解説をはじめ、市内在住外
国人の内訳、朝鮮語や民族衣
装などを紹介。写真や地図、
イラストも使って分かりやす
い内容となっている。

編集作業は七月から始めら
れ、市立文学中学校の太田光
一教諭（みち）ら六人が冊子作製
に当たった。それぞれ、教育
界で在日韓国・朝鮮人に対
する差別問題と取り組んでき

たが、三年前から、市教育研
究集会で知り合った教諭同士
で情報交換をするようになった。
今年に入って、兵庫県教
委や西宮市教委が、国際理解
教育の一環として、在日韓国
・朝鮮人在日外国人に対す
る偏見をなくす指導方針を打
ち出したこともあって、太田
教諭らは、冊子で子供たちに
も周知させていくことにし
た。

第一号の「アンニョンハセ
ヨ」には、別冊で教諭用の「指
導の手引き」も発行。授業の
自主教材として使うようにな
ってからは、在日韓国・朝鮮
人の生徒たちが悩みを打ち明
けに來たり、児童の父母から
も評価する声が続けられたりす
るようになっていくという。

太田教諭は「外国人差別の
実態を目の当たりにしたことが
きっかけで冊子作製に加わ
ったメンバーもいる。私たち
自身も勉強のつもりで活動を
続け、よりよき隣人」とし
て付き合える視点を育てた
い」と話しており、今後は、
年二回の発行を目途に、在日
韓国・朝鮮人の側からの歴史
観や朝鮮文化と日本文化のか
わり、お互いの国の交流の
歴史などを織り込んだ紙面作
りをしていく計画だとい

責でをとを、歴に、人あ、共、きん、る「別め、とん、別教、を組
るのか、と、点、紋、押、て、鮮では、と、あて、差、しかじ、差、つ、で、ち、り、組
す、い、た、な、視、。指、ど、く、朝鮮、は、を、い、こ、の、と、あ、み、す、と、た、く、被、一、上、た、取、の、取
対、な、あ、間、に、大、て、け、つ、」日、問、ち、在、る、て、ん、る、ジ、で、組、と、の、出、ん、の、一、そ、ど、層、の、取
とな、で、人、い、。が、い、い、を、。在、の、た、い、え、か、)一、の、り、の、別、が、か、別、に、。子、一、層、の、取
こ、は、う、非、も、か、と、つ、な、史、い、。人、も、め、て、考、「略、て、メ、る、取、も、差、と、」。差、ち、る、の、お、き
た、て、ど、。お、い、こ、に、来、歴、し、。に、本、ど、と、つ、を、の、省、い、い、に、の、被、こ、の、る、た、あ、落、な、お、き
しく、は、か、の、な、く、き、出、な、欲、た、う、日、子、け、願、か、生、は、用、の、て、習、な、じ、る、回、あ、ゆ、も、で、部、な、お、き
が、な、い、た、者、は、い、動、は、ん、て、つ、よ、の、く、受、と、る、年、明、て、ス、え、学、ん、同、が、今、で、ら、ど、と、別、て、し、。お、き
本、か、も、あ、つ、た、で、て、く、と、ど、え、く、る、り、い、て、い、る、1、説、し、ナ、提、題、み、。な、が、と、あ、子、こ、差、。し、。お、き
日、い、お、あ、つ、き、げ、ま、こ、。考、く、あ、わ、つ、し、し、め、童、の、と、イ、を、問、。即、つ、と、こ、る、い、被、る、と、う、お、き
、て、の、で、か、べ、な、り、る、る、く、め、で、ま、く、と、欲、進、児、象、業、マ、」落、を、。が、に、こ、た、す、は、な、あ、題、思、。し、。お、き
に、し、者、う、な、る、つ、取、え、来、よ、緋、う、。つ、題、て、に、校、事、言、に、ん、部、い、た、み、い、い、つ、と、の、ら、て、で、課、と、お、き
共、習、た、。ど、ら、せ、に、を、変、出、り、を、そ、た、を、問、し、う、本、(る、既、せ、ら、も、き、組、も、な、な、め、う、な、し、か、の、い、お、き
と、学、れ、と、は、な、さ、習、ち、は、は、と、業、が、ま、史、の、造、よ、て、け、。う、か、お、て、り、お、は、に、じ、い、は、と、く、後、た、お、き
実、も、さ、こ、」は、え、学、た、実、と、ひ、授、別、。歴、分、創、の、し、た、つ、は、よ、く、の、し、取、の、で、か、は、と、て、側、い、今、き、お、き
事、て、。行、る、側、て、考、な、人、事、こ、人、で、差、も、の、自、を、ど、く、つ、ち、ち、早、ち、を、の、人、う、ら、を、い、く、の、て、を、い、お、き
の、い、か、連、せ、た、く、。的、の、)の、一、葉、る、別、ら、が、会、を、じ、あ、や、た、。、た、み、そ、鮮、そ、明、別、も、な、別、げ、と、て、お、き
史、つ、い、制、ら、し、な、て、常、日、等、史、く、。言、ゆ、差、か、り、杜、業、同、が、を、も、く、は、人、組、。朝、。で、差、お、か、差、な、こ、め、お、き
歴、に、な、強、か、「し、て、日、在、歴、つ、か、の、ら、る、れ、と、る、授、を、言、手、ど、こ、校、の、り、は、日、と、言、落、の、い、被、つ、の、進、お、き
任、は、わ、を、当、。擦、」を、の、こ、あ、す、こ、ひ、き、本、時、発、相、子、ん、本、落、取、で、在、う、発、部、側、て、じ、う、こ、を、お、き
・
・
・
・
・
史、く、対、人、生、。か、部、の、の、い、」の、え、同、ど、み、お、き

第8分科会

(ビデオ〈映像記録〉)

司会 太田光一、船橋正樹

〈この分科会のねらい〉

在日朝鮮人・中国人の一世が高齢化していき、当時の体験を語ることもなく歴史のなかに埋もれていく中にあって、生の声を映像として記録していく作業は急を要している。

また、多くの強制連行・強制労働の事実をなんらかの形で掘り起こし、記録として後世に正しく伝えていく作業は、今後の大きな課題でもある。戦後半世紀にもなろうというのに放置されたままになっている歴史は、山のようにある。しかし、各地でその歴史を埋もれさせまいと映像で残す取り組みもかなりされている。その交流をこの分科会では行いたい。

〈プログラム〉

- ① 「武庫川と朝鮮人の歴史」
……太田光一（兵庫県西宮市立学文中学校）
- ② 「長生炭坑の水非常を歴史に刻む」
……中原憲明（山口県）
- ③ 「北条地下工場と朝鮮人強制連行」
……姫路朝鮮問題研究会・他
- ④ 「姫路で爆弾製造の工場跡発見」
……サンテレビ報道部
- ⑤ 「大阪調査団レポート（仮題）」
……スタジオ游
- ⑥ 「千葉の強制連行（仮題）」
……松原 明（ビデオプレス）
- ⑦ 「マンガン鉱山に生きる」
……マンガン鉱山を記録する会
- ⑧ 「旧生駒トンネルと朝鮮人労働者」
……田中寛治（奈良県）

1. ビデオタイトル

武庫川と朝鮮人の歴史

内容概略 1930年代に行なわれた黒部第3発電所建設に伴うの朝鮮人労働者の埋もれつつある犠牲を振り返り、その電気を使う関西の私達の生活を問いつつ、目を私達の身の回りに向けると、多くの朝鮮人労働者の労働が浮かび上がってくる。その一つが、武庫川の改修工事である。(1920年代～)洪水を繰り返していた武庫川は、20数万人の朝鮮人労働者の労働が投入され今の姿がある。その後、県は、その労働者の河川敷の住居を1960年代に強制立退を迫る。笑顔あふれる武庫川にこんな歴史がある。

制作者 西宮市立学文中学校3年5組 制作年 1987年

時間 20分 問い合わせ 西宮市高座町1-45 太田光一
0798-73-4627

2. ビデオタイトル

長生炭坑の水非常を歴史に刻む

内容概略

宇部の長生炭坑(海底炭坑も含む)で、戦前落盤等により多くの朝鮮人労働者が生き埋めの状態で、犠牲になっているのだが、多くの人々はそんな事実も知らず、まさに埋もれたままになっている。宇部市の郷土歴史家の調査でその事実が、分かり、その炭坑の空気出入口などを保存する取り組みを行なっている。

制作者 中原憲明

制作年

時間 10分 問い合わせ 山口県萩市椿東565-5
08382(5)9833

3.

ビデオタイトル

北条地下工場朝鮮人強制連行

内容概略

加西市に残っていた北条地下工場の实地調査とその建設で行なわれた朝鮮人強制連行の事実などの聞き取り調査記録

制作者 姫路市教職員組合

制作年 1988年

姫路朝鮮問題研究会

兵庫朝鮮関係研究会

時間 12分

問い合わせ

姫路市飾磨区恵美酒600姫路市教育会館

内 姫路朝鮮問題研究会

0792-35-2020

4.

ビデオタイトル

姫路で爆弾製造の工場跡発見

内容概略

姫路市砥掘でトンネル跡発見。戦時中強制連行された朝鮮人が、掘られたものではないかと調査した「兵庫朝鮮関係研究会」では見ている。

制作者 サンテレビ報道部

制作年 1991年

時間

問い合わせ サンテレビ報道部

5. ビデオタイトル

真相調査団・大阪からの報告

内容概略

大阪の強制連行

調査から

制作者 大阪府朝鮮人強制連行 制作年
真相調査団

時間 問い合わせ

6. ビデオタイトル

千葉の強制連行（仮）

内容概略

今年のはじめて、明らかになった千葉の軍事トンネルにおける強制連行。

その一カ所をレポート

制作者 松原明 制作年 '91、7

時間 10分 問い合わせ ビデオプレス
03-3385-6901

7. ビデオタイトル

マンガン鉱山に生きる

内容概略

強制連行による朝鮮人労働の過酷さが近年、知られるようになってきたが、京都府の丹波地方に数多くあったマンガン鉱山での朝鮮人労働の実態は、大阪から車で約2時間という近い場所のことながら、まだほとんど知られていない。私たちは丹波のマンガン鉱山に生きた朝鮮人の歴史を後世に伝えるため、丹波・京北町で「丹波マンガン記念館」を運営している李貞鎬（リ・ジョンホ）氏を中心としたグループで、丹波の在日朝鮮人の方々に渡航史、鉱山での経験などについて取材を進めている。来年5月から夏にかけ、ビデオ作品や写真集、ルポルタージュなどを完成させる予定。今回発表するビデオ作品は、現時点までに取材した分をまとめたものだ。

制作者 マンガン鉱山を記録する会

時間 問い合わせ 075-612-5772 大西正彦

8.

ビデオタイトル

旧生駒トンネルと朝鮮人労働者

内容概略 「旧生駒トンネルに幽霊が出る」という噂の背後にきつと隠された歴史があると確信して、地元の古老の聞き取り調査を進める中で、今まで知られなかった事実が浮かび上がってきた。80年も前の工事にすでに朝鮮人労働者の姿が・・・。

制作者 田中寛治 制作年 1990年

時間 18分 問い合わせ 田中寛治 07437-4-5840

第9分科会

(地域史のみなおし)

司会 吉崎篤志、薬師寺小夜子

〈この分科会のねらい〉

今、開発の波のなかで、消え去ろうとしている歴史遺跡が多く、その保存のための運動が急務となっています。また、県史、市町村史などの郷土史において、正しく戦争や在日朝鮮人・中国人の歴史について記述されているでしょうか。歴史記念碑の文章に間違いや歪曲がないでしょうか。そればかりか、地域の朝鮮人や中国人の歴史について、とりあげようともしない無関心さや意図的に隠蔽しようとする姿勢がないでしょうか。

「地域史のみなおし」の課題が山積しているのが実情と言えましょう。そこで、この分科会では、各地で戦争遺跡の保存、犠牲者慰霊碑の建立、郷土史の書きかえ、歴史記念館の建設などの運動を進めているグループの活動を報告していただき、課題の整理と運動の方向を討議します。

〈プログラム〉

※① なぜ追悼碑を建立するのか

……齊藤日出治（三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者〈李基九・裴相度〉の追悼碑を建立する会）

※② 強制連行の足跡の残る全国の自治体に調査照会をして（仮題）

……梁泰昊（兵庫民闘連）

③ 山形県の朝鮮人の強制連行について

……佐久間 昇（山形県地域史研究会）

④ 長野県の松代大本営建設現場近くに残る朝鮮人「慰安婦」の家の移築保存について（仮題）

……菊池嘉晃（松代大本営を考える会）

※⑤ マンガン鉱山に生きる

……李貞鎬（マンガン鉱山史を記録する会）

※⑥ 高槻からの報告

……宇津木秀甫（「タチソ」戦跡保存の会）

9 - ①

なぜ追悼碑を建立するのか

斉藤日出治

(三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者(李基允~~張~~相度)の追悼碑を建立する会)

1 事件のあらまし

1926年正月に三重県の木本(現熊野市)で二人の朝鮮人労働者が地元住民によってなぶり殺しにされるという事件が起きました。当時木本ではトンネル工事のために数十人の朝鮮人が遠方から働きに来ていましたが、日本人が朝鮮人労働者にけがを負わせるというささいな喧嘩をきっかけとして、「朝鮮人が住民に復讐しにやって来る」というデマが乱れ飛び、このデマに乗じて在郷軍人会や消防組が武装して朝鮮人労働者の飯場を襲いました。この騒ぎの中で住民に立ち向かった李基允氏と衝突を制止しようとした~~張~~相度氏の二人が頭にトビ口を突き立てられ、無残にも殺されたのです。

2 「木本事件」は今もくりかえされている

65年前に起きたこの事件に関して地元に残されているのは、極楽寺というお寺に放置された二人の無縁仏と、『熊野市史』をはじめとする地元の有識者が書いた事件の記述だけです。無縁仏には二人の本名はなく、日本名が彫られ、四文字の差別戒名が刻まれています。また当時在郷軍人会の副会長をしていた谷川氏が書いた「鮮人騒動の記」(『木本小学校百年誌』)は、朝鮮人労働者の「態度はまことに傍若無人目に余るものがあり、彼らの存在は「住民にとり一つの脅威でさえあった」と述べています。

このことは、65年前に二人の惨殺を引き起こした地元住民の差別感情が今もなお温存され、再生産されていることを物語っているように思われます。事件に対するこのような見方は、現在の在日韓国・朝鮮人や外国人労働者に対する日本人の態度のうちにはねかえっているのではないのでしょうか。

3 もう一つの歴史をみつける

ところが、わたしたちは現地で調査活動を行なうなかで、地元の住民がこのような市の有識者がとらえた見方とはまったく異なる交流を朝鮮人労働者とのあいだで行っていた事実を発見しました。たとえば、子供のころ事件を目撃したおじいさんは、極楽寺にある二人の無縁仏までわたしたちを案内し、殺された

表さんが地元住民から大変に慕われていたことを教えてくれました。また表さんの娘と大の仲良しだったというおばあさんの話から、子供同士の親密なつきあいがあったこともわかりました。事件当時、地元では朝鮮人と日本人とのあいだに一方で差別感情に基づく厚い壁があると同時に、他方で両者のきわめて豊かな交流があったことがしだいに明らかになってきました。

4 歴史を書きかえる

二人の追悼碑を建立することの意義は、差別感情を温存し、かつ二人の虐殺を正当化している地元の有識者による公認の歴史観をくつがえし、事件当時存在した朝鮮人労働者と地元住民との豊かな交流を発掘することにあると、わたしたちは考えます。地域の歴史を書き換える作業は、現在の、そして未来の新しい共同の関係を築くための作業となります。過去をどう見るかは、未来をどのように築き上げるかという方向を決定します。わたしたちはこのような地域の歴史の見直しを通して、未来における日本人と在日外国人との新しいきずなを探っていきたいと考えています。

熊野市は5回に及ぶわたしたちとの話し合いで、「政教分離」の原則を楯にとって碑の建立に取り組むのを一貫して拒んできましたが、昨年の暮れに新市長が誕生して以降、姿勢を転換し、今年の話し合いでは市民の協力を得ながら、碑を建立していきたいという方針を表明しました。

さらに、わたしたちは碑の建立と同時に、歴史の記述を書き換える運動も進めています。事件を扱った『熊野市史』では、木本町民の行動を「まことに素朴な愛町心の発露であった」とする箇所がありますが、市はすでにこの箇所を削除することを決定しています。また、「鮮人騒動の記」を執筆した谷川氏も、教育委員会の要請に応じて記述の書き直しに同意し、差別表現の削除を行っています。

これからは、碑の建立に向けて、熊野市の市民が一人でも多く建立場所や碑文の内容を検討するという具体的な作業に取り組むよう働きかけていきたいと考えています。またこの作業が同時に熊野市における在日外国人の現在の人権を守り、育てていく運動と結びくように努力して行きたいと考えています。

- 北海道＊朱鞠内ダム／北電藻岩発電所／鴻の舞鉱山（紋別）／イトムカ鉱山（るべしべ）
置戸鉱山／計根別飛行場／美唄炭坑／豊羽鉱山／丘珠空港／幌内炭坑／開拓資料館（名簿）／道立図書館／浅茅野飛行場（浜頓別）／統一日報90.10.31に一覧表
- 青森 ＊大湊地下工場／青森港荷役作業／十和田発電所工事／
- 岩手 ＊六黒見鉱山／日本製鉄釜石製鉄所／
- 宮城 ＊細倉鉱山／
- 秋田 ＊田沢湖導水工事／
- 山形 ＊田川鉱業所／日本電興小国製造所／永松鉱業所／
- 福島 ＊常磐炭坑／
- 茨城 ＊日立鉱山／日立市立郷土博物館／日本兵器産業（下館）／
- 栃木 ＊足尾銅山／
- 群馬 ＊
- 埼玉 ＊比企地下軍事施設／
- 千葉 ＊富津旧海軍トンネル群／大網白里戦闘機地下工場／
- 東京 ＊拝島水源施設／八丈島地下要塞／八王子・東部軍司令部跡地下壕／
- 神奈川＊相模湖ダム／横須賀トンネル／
- 新潟 ＊
- 富山 ＊庄川町雄神地下工場（不二越）／
- 石川 ＊石川郡鶴来町地下工場／小松市小尾町鉱山跡／
- 福井 ＊マンガン鉱山？／
- 山梨 ＊富士川第一発電所工事／
- 長野 ＊松本大本営／天竜川・木曾川流域ダム／上田市地下飛行機工場／
- 岐阜 ＊瑞浪市・犬山市・可児郡・中津川市地下軍需工場／楽田地下工場／丸山ダム／神岡鉱山
- 静岡 ＊
- 愛知 ＊豊川海軍工廠／中島飛行機半田工場／
- 三重 ＊
- 滋賀 ＊琵琶湖干拓（野田沼）／

- 京都 * 京都飛行場（ウトロ）／桑田郡・新大谷鉱山（マンガン）／福知山市東部トンネル／
- 大阪 * 高槻地下軍需工場／岬町人間魚雷基地／吹田市北部丘陵トンネル／茨木市中穂積トンネル／
- 兵庫 * 神戸製鋼尼崎工場／川西航空機甲南工場（新明和）／甲陽園トンネル／山陰線鉄道敷設工事／三木飛行場／三田・地下軍需工場（住友）／加西・地下工場（川西航空機）／日本精鉱旧中瀬鉱業所／伊丹飛行場／篠山ケイ石採掘場／
- 奈良 * 天理柳本飛行場／五条市北宇智地区トンネル／
- 和歌山 * 那賀郡打田町トンネル／
- 鳥取 * 旧海軍美保基地／旧岩美鉱山（日本鉱業）・荒金鉱山／山陰線／
- 島根 * 美都町都茂鉱山／匹見下村ダム（澄川発電所）／鰐淵鉱山／三沢村新北原発電所／安来・日立金属／
- 岡山 * 亀島山地下工場／三井造船玉野造船所／
- 広島 * 高暮ダム／呉海軍工廠／三菱重工広島機械製作／安佐南区佐東町トンネル／
- 山口 * 宇部炭坑／徳山海軍燃料廠／長生炭坑／
- 徳島 * 徳島航空隊第二飛行場（阿波郡）／蒲生田岬地下要塞／阿南市小勝島・震洋隊基地／小松島海軍航空基地／日本鉱業高越鉱業所・三好鉱山・東山鉱山
- 香川 * 託間・香田海軍航空基地／小豆島内海町特攻基地／三菱鉱業直島製錬所／
- 愛媛 * 温泉郡重信町飛行場／松山市鷹子町飛行場／
- 高知 * 家地川ダム導水パイプ建設工事／土佐市海軍特攻艇部隊・震洋隊基地／
- 福岡 * 筑豊炭坑／具島炭坑／麻生吉隈炭坑／三井三池炭坑／
- 佐賀 * ? 造船所／小城炭坑／小岩炭坑／杵島炭坑／大鶴炭坑／
- 長崎 * 旧川南工業／三菱重工業長崎造船所／端島炭坑／
- 熊本 * 健軍飛行場／七城町トンネル（三菱航空機地下工場）／市電健軍線／健軍川拡張工事
- 大分 * 鯛生金山／
- 宮崎 *
- 鹿児島 *
- 沖縄 * 慶良間列島／本部町／屋慶名収容所／安東丸事件／

ビデオ・ルポルタージュ「マンガン鉱山に生きる」の紹介 マンガン鉱山史を記録する会

強制連行による朝鮮人労働の過酷さが近年、知られるようになってきたが、京都府の丹波地方に数多くあったマンガン鉱山での朝鮮人労働の実態は、大阪から車で約2時間という近い場所のことながら、まだほとんど知られていない。私たちは丹波のマンガン鉱山に生きた朝鮮人の歴史を後世に伝えるため、丹波・京北町で「丹波マンガン記念館」を運営している李貞鎬（リ・ジョンホ）氏を中心としたグループで、丹波の在日朝鮮人の方々に渡航史、鉱山での経験などについて取材を進めている。来年5月から夏にかけ、ビデオ作品や写真集、ルポルタージュなどを完成させる予定。今回発表するビデオ作品は、現時点までに取材した分をまとめたものだ。

◎丹波マンガン鉱山の歴史

丹波地方のマンガン鉱山は、京都市の西北の山間部、京北町、日吉町、美山町、亀岡市などに広がっている。小規模な鉱山ばかりで、その数約200。明治時代から鉱山開発が始まったが、1970年代に次々と閉山、現在は採掘は全く行われていない。

1930年代までは地元の人々による細々とした採掘が行われていたが、日本が軍国主義に突入したため、鉄鋼や乾電池などの軍需関連物資に不可欠な材料として需要が増加。労働力不足を補うため、募集や強制連行などで日本に来た朝鮮人が多く採掘に従事した。小さな鉱山では、日本の鉱業権者から採掘を請け負った朝鮮人が家族で飯場に住み、家族総出で採掘を行ったところが多かった。鉱夫を何人か雇い、飯場で生活を共にする場合もあった。坑口の近くに、丸太や木の皮で掘って建て小屋を作り、飯場とした。オンドルを作って暖房したが、冬は寒く、家事は重労働で、女性たちの苦労も大きかった。

松下幸之助氏が社長をしていた松下鉱業（現・辻中鉱業）の所有だった掛橋鉱山（美山町）などの大きな鉱山では、百人以上の朝鮮人鉱夫が飯場で生活しながら、採掘作業に従事した。効率を上げるため、鉱脈に達する坑道は狭く、かがんだままの作業は過酷だった。坑内は湿っぽく、結核が職業病だった。鉱石は山陰本線殿田駅などに集められ、貨車で製鉄所などに運ばれた。山中にある掛橋鉱山などでは、馬車やトラックが使える道まで、峠越えの道を朝鮮人が背中に担いで運んだ。1回に80キロを担ぐという重労働だった。

◎閉山し、じん肺が残った

戦後、財閥解体などで需要が減り、一時期採掘をやめていたマンガン鉱山は、1947年ごろには再開された。戦後復興を目指す日本では、鉄鋼の傾斜生産で再びマンガンの需要が増えたからだ。終戦後、祖国へ帰った人も多かったが、戦前、戦中の労働に対する賃金が支払われなかったため、交通費がなく

て帰国できなかった人も多く、日本に残った人々が採掘を再開した。戦前は軍服姿の軍人が鉱山来て増産を命じたが、戦後はそれが背広姿の大手メーカーの担当社員に変わっただけで、鉱山の環境は変わらなかった。

いや、環境はむしろ悪化した。1960年ごろまでは、のみとハンマーでダイナマイト用の穴を開けていたが、その後はさく岩機が普及。作業の効率は何倍にもなったが、多量の粉じんが発生するようになり、多くの作業員がじん肺になった。夕方にダイナマイトを爆発させ、粉じんがおさまった翌朝に、鉱石などの搬出をするのが一般的だったが、そんな余裕もなくなり、爆発後30分-1時間で作業を始めるようになり、じん肺患者は増えた。

削岩機の使用はまた、鉱脈の枯渇を早めることにもつながった。安価な輸入マンガンの登場で国内鉱山の採算が合わなくなったこともあり、1970年代に相次いで閉山。あとには在日朝鮮人などのじん肺患者だけが残された。

◎在日の歴史を残す記念館

丹波マンガン記念館の李貞鎬館長は、1932年生まれの在日2世。中学生のころから伯父と共に日吉町、京北町などのマンガン鉱山で働き、戦後は朝鮮総連の組織作りにも尽力した。だが、三洋電機の下請けをしていた70年代からじん肺になり、入院生活が続いている。

李さんは、在日の苦しい歴史が忘れ去られるのを見越せず、記念館を作ろうを思い立ち、鉱業権を持っていた京北町の新大谷鉱山の坑内を一般の人が見学できるように広げることにした。だが、京北町などの公的機関は全く協力しなかった。李さんは妻、息子夫婦ら家族と、坑道を広げ、資料の展示館を作り、飯場を復元し、一昨年5月、オープンした。まさに手作りの記念館だ。

◎私たちの取材

私たちの取材は「自分が動けるうちに、鉱山で働いた朝鮮人の証言を記録しておきたい」という李さんの考えから始まった。これまで丹波地方の在日朝鮮人を中心に、約15人の話を聞いた。

李さんの知人、人脈をたどっての取材だったが「話したくない。今さら話して何になる」と、取材を断わる人も何人かいた。鉱山で働いていた御主人は亡くなり、一人暮らしのオモニが「つらいことばかりで、みんな忘れてしまった」と寂しそうに語るのも聞いた。家族が戦後、朝鮮民主主義人民共和国に帰ったものの、音信がほとんど途絶え、苦しい心情を話して下さった方もいた。取材を進めるほどに、平穏な田舎町のように見える丹波地方で夏草に埋もれているマンガン鉱山をめぐる歴史が、忘れてはならないものと感じるようになった。

(文責・田中 宇)

注・ここでいう朝鮮人とは、韓国籍、朝鮮籍を持つ朝鮮半島の出身者、及びその子孫の総称です。

高槻からの報告

1 強制連行・強制労働の実態を解明する課題

住民の先進的調査活動に、広範な歴史家の協力を求める。そのなかから「地域史のみなおし歴史運動」を展開して、更に実態を解明をしていく必要性

●高槻に係る米軍資料の間違い

- ・米軍調査団への報告者は株式会社間組の監督
- ・朝鮮人の数と、その住居についてのごまかし（強制連行などの事実を秘匿）
- ・株式会社間組へ責任追求の必要性

●国、地方自治体の資料について

- ・高槻の場合、磐手国民学校の学校日誌が「市史」編纂室の資料のなかからみつかった。

2 調査した資料、残っているトンネルなどにもとづいて、地方自治体などの既刊市町村史の書替え作業を実現させる課題

- ・「高槻市史」編纂段階での努力
- ・今後の補遺編の編纂の課題
- ・小学校副読本での記述と、その書き替えの課題

3 トンネルなどを戦跡として調査し、保存し、公開する課題

- 初歩的で部分的な住民運動の調査の実態と見学のご案内
- 記録の出版、今後の自治体行政による調査の意義と必要性

4 犠牲者慰霊碑、記念碑、記念館をつくる問題点

- 高槻の住民運動（保存の会）のビジョンと行政交渉の現段階
- ・犠牲者の実態の部分的発見と、その重大性（別紙資料）

5 戦跡見学会の実態と課題をめぐって

- ・公開施設になっていないところを見学する問題点
- ・見学の促進、拡大の課題
- （全国共通資料のパンフ作成が必要ではないか）

6 学校教材、社会教育教材をつくっていく課題

- ・副読本の書き換えに通じる教材づくり研究活動
- ・学校で教えるなかで出てくるいくつかの課題として、
小学校3、4年段階の教材のありかたについて
- ・在日1世から3世にわたる民族教育と関連する課題

- ・記録映画の運用

7 国、地方自治体への要望事項として

- ・実態調査をおこなうべき国と地方自治体の責任について
- ・遺跡を国、地方自治体が史跡として認定し、保存にのりだす義務があることについて（破壊は責任の隠滅につながる）
- ・侵略、抑圧、無謀な戦争の責任をあきらかにして、平和と友好、共存を誓いあう公的行事の開催を求めるとともに、公的声明をさせていく必要性

以上

第10分科会

(戦争動員・強制連行・強制労働と戦後補償)

司会 仲原良二、三木こずえ

〈この分科会のねらい〉

戦後補償とは何か、基礎資料をどのように集めるか、政府・企業への働きかけ、裁判闘争の実情などにつき、現在の最先端の研究・活動を紹介し
ます。

まず、強制連行、強制労働、徴用、徴兵などによる物的・人的損害につ
いての基礎的な「事実」と「資料」を明らかにしていきたいと思ひます。
次いで、討論の軸として、①戦後補償とは何か。補償すべき対象と内容を
どのように考えるのか。②補償事項についての事実経緯と法制関係を明確
にし、日韓条約「請求権」協定の問題点を明らかにする。③国や企業への
働きかけ、裁判闘争など補償要求とそのとりくみについて考える。の三点
をすえ、「かくあるべき」という運動論ではなく、「事実」と「資料」に
基づいた分科会にしたいと考えています。

〈プログラム〉

- ① 戦後補償問題に関する年表および基本文献についての発表
……分科会司会者より
- ※② 連行朝鮮人労働者に対する未払金問題
……古庄 正（駒沢大学教授）
- ③ 戦後補償と土地追い出し
……横川栄次（地上げ反対！ ウトロを守る会）
- ※④ 軍人・軍属等への「戦傷援護法」の補償について
……鄭順一（鄭商根さんの戦後補償裁判を支える会）

1. 本報告の課題

第二次大戦中、百万を越える朝鮮人が日本に連行され、民族的差別の下で鉱山や炭坑や工場その他で酷使された。朝鮮植民地支配に起因するこのような強制連行と強制労働に関する戦後処理はどのようになされたのだろうか。在日本朝鮮人連盟の補償要求との関連で、この点を明らかにすることが、この報告の課題である。

2. 朝鮮人連盟の補償要求

敗戦後、連行朝鮮人は朝鮮人連盟を先頭に押し立て、全国各地で解放と補償を求めて立ち上がり、日本政府と企業を震撼させた。朝鮮人連盟の補償要求は多岐にわたったが、その中心となったのは（a）連行朝鮮人に関する総合的情報の提供、（b）連行朝鮮人に対する「慰藉料」の支給と死傷者に対する「特別慰藉料」の加算、（c）死者および逃亡者等の質銀、退職手当、預貯金、保険金、弔慰金等の未払金の朝鮮人連盟への委託の三点であった。朝鮮人連盟のこうした要求に対して、日本政府は（a）は認めたものの、（b）（c）についてはこれを断固拒否した。日本人労働者と植民地労働者との間の差別的取扱いを禁じた厚生省令第二号に違反する「不当要求」であり、朝鮮人連盟は在日朝鮮人の保護救済を目的とする自治的団体にすぎず、「民法ニ定ムル正当ナル代理人ト見做シ得ズ」というのがその理由であった。

朝鮮人連盟の要求の全面拒否は、連盟側の激しい抵抗を予測させたが、日本政府は警察力の集中配備によってこれを封殺する体制を固めた。

3. 未払金の供託

だが、（c）については、力を背景とした単なる拒否ではすまなかった。「未払賃金等ハ事業主側ノ保管ノマニシテイルト時日ノ経過ト共ニ不道德資本家ハ之ヲ奇貨トシテ証拠湮滅ヲ計ル等相続人ニトッテ不利ノ結果ヲ生ズルカラ是非聯盟ニ供託サレタシ（『朝鮮人労働者関係』）」とする朝鮮人連盟側の主張はそれ自体根拠のあるものであり、これをかわすためには、未払金を供託局に供託する方法をとらざるをえなかった。室蘭進駐軍司令部が「一切の朝鮮人関係未払手当金は該軍政部に於いて清算処理する事」（『輪労』第68号）を決定、1946年7月29日までに内訳書類を添付のうえ、未払金を同司令部に納

入するよう管内各企業に通告したことは、これを加速させた。厚生省は、こうした地方軍政部の働きに対抗して法務省およびGHQと協議を重ねる一方、各社に対して未払金の申告を命じ、次官通牒によって同年7月中にも供託制度を発足させようとしていた。しかし、「マ司令部許可遅延ノ為」、結局それは9月初旬までずれ込んだ。連行朝鮮人に対する未払金の処理に関するGHQの方針が、室蘭進駐軍司令部の場合と同様「軍政部を経て總司令部宛該金を送付し、朝鮮進駐軍に依託の上それぞれ本人に交付する」（『朝鮮人労働者関係』）というものであったかどうかは即断できないけれども、少なくともこれを許容していたことは確かであり、そのことが「マ司令部許可遅延」の一因だったと解される。事実、1945年10月29日付の日本政府宛の「覚書」によれば、GHQは日本の炭坑で働いている朝鮮人の賃銀を朝鮮に送金することを許可するよう、日本政府に要請している（AG248 ESS-F1 SCAPIN NO. 207）。

企業の供託した未払金の総額がどの位になるかは、供託報告書が公開されていない現段階では、むろん知ることはできない。しかし、敗戦時5,555名の朝鮮人工員を雇っていた日本製鉄株式会社のみでも66万4千円を供託していることからみて、それはかなりの額に達したものと推察される。未払金がこのような多額にのぼった理由はなにか。釜石製鉄所の例でみると、それは（a）死没者に対する未払金が多く、未払金総額の65.4%を占めていたこと、（b）連行朝鮮人の帰国を1945年12月25日まで認めなかったため、多くの逃亡者や「事故帰国」者を出すことになったこと、（c）そのうえ、手続未済のためか、「満期帰国」者や「終戦帰国」者に対してさえ、その支払いを拒否したこと、この三点に起因していた。

4. 日韓条約と請求権問題

強制連行にかかわる補償問題は、日韓会談での最重要課題の一つとなった。韓国政府は世論に押されて補償問題の解決を日本政府に迫ったが、日本側はこれを頑なに拒否した。そして1962年12月の大平＝金会談においては、無償3億ドル・有償2億ドルの「経済協力」の供与と引きかえに、一切の対日請求権の放棄を韓国側に「了解」させ、1965年の日韓条約においてこれを追認させた（外務省条約局条約課『日韓条約国会審議要旨』222頁）。その結果、死傷者に対する補償はおろか、本来、個々の連行朝鮮人ないしその遺族に返還されねばならなかった各種未払金さえも、日本政府によって没収され、日本銀行に保管された（『朝日新聞』1991・6・21）。もっとも第50回国会での後

宮アジア局長の答弁によれば、韓国側は日本から供与された「経済協力」の中から基金を作り、「証拠書類」を提示した者にはある程度弁済する方針であったようだが、預金通帳その他の書類を奪われていた連行朝鮮人にとって、「証拠書類」を提出することなどなしうはずもなく、韓国側がこうした措置をとったとしても、それは形式的なものに終わったとみてよいだろう。5億ドルの「経済協力」と引換えに一切の対日請求権を韓国側に放棄させたことは、供託報告書の韓国側への提示を不要なものにした。日本政府のねらいは、むしろこの点にあったとも解される。数十万ないしそれ以上の連行朝鮮人に関する情報が記録されている供託報告書の公開は、朝鮮人強制連行の骨格を白日の下にさらすことになるからである。

5. 未払金問題は解決されたか。

連行朝鮮人に対する未払金問題について、法務省は「供託の消滅時効はあくまでも十年。今供託金の払い戻しの請求があっても、応じられない」（『朝日新聞』1991.6.10）としている。だが、こうした強気の発言とは裏腹に、同省は供託金の処理をためらい続けている。前掲『朝日新聞』によれば、供託が時効となった1956年、地方法務局からの照会に対して、「消滅時効の採用等による措置はすべきでない」と回答しており、1958年にはさらに「朝鮮人労務者に対する未払金等の供託処理について」という通達を出し、供託金と関係書類の保管を徹底させた。そのうえ、供託された未払金はいまなお国庫に組み入れられることなく、日銀保管となっている。一般韓国朝鮮人の預貯金に関する支払い要求に対しても、日本政府は優柔不断の対応に終止している。日本政府は、日韓条約によって「請求権問題は完全かつ終局的に消滅した」（前掲『日韓条約国会審議要旨』220頁）としながらも、なお供託金の処理について最終的決断を下しかねていることが、ここに示されている。「請求権問題を経済協力という形で解決されましたが、これは非常に妙案であったと思います」（前掲書222頁）。ある自民党議員は第50回国会においてこう絶賛したが、軍令第33号およびサンフランシスコ条約によって日本は対韓請求権を主張しえなかったにもかかわらず、相互「積み上げ方式」を強硬に主張してこれを押し通し、その一方で徹底した証拠隠しを行い「証拠書類」がないとしてこれを挫折させ、請求権問題を経済協力にすりかえるというあまりにもできすぎた「解決」の結果に、日本政府は戸惑い続けている。それは「タダ働き半生」を強制された連行朝鮮人労働者たちの痛恨の思いにたじろいでいる、というべきかも知れない。

鄭商根さんの戦後補償裁判を支える会 活動報告

《はじめに》

『戦争はまだ終わっていない』この言葉は、侵略戦争に狩り出され、負傷し、戦後は何の補償もなく40数年間放置されてきた鄭商根さんの怒りの叫びです。

東大阪市に住む在日韓国人一世、鄭商根（チョン・サングン）さんは1991年1月31日、戦傷病者戦没者遺族等援護法（援護法）の適用と国家賠償を求めて大阪地裁に提訴しました。

《鄭さんの第2次世界大戦と戦後》

朝鮮の済州島に生まれた鄭さんは、太平洋戦争当時、日本政府の命令で旧日本海軍の軍属として徴用され、1943年12月、マーシャル諸島で米軍の爆撃によって右腕をヒジから切断する負傷を負いました。その後、神奈川、三重などで治療中に日本は敗戦。身ひとつで放り出された鄭さんは、大阪の親せきを頼って来阪し、以後不自由な体で戦後を生き抜いてきました。

《戦後補償から除外された鄭さんー在日韓国人・朝鮮人・台湾人ー》

1910年日本は朝鮮半島を植民地化する韓日併合を行い、1952年4月28日にはサンフランシスコ講和条約締結と共に一方的に日本国籍を剥奪しました。同年4月30日、戦傷病者戦没者遺族等援護法（援護法）公布。この法律は4月1日にさかのぼって適用されましたが、この際、日本国籍・戸籍をもたない者は資格がないとしました。当時、4月1日には、在日はまだ日本国籍を持っていたましたが戸籍については植民地時代から「外地戸籍」であり、日本戸籍法を受けていませんでした。その後1962年に日本政府は帰化した人については援護法の適用を行ったが1965年「日韓条約」及び「日韓請求権協定」によって補償問題は解決済みとして、それ以降帰化した人も含め援護法から除外しました。また日本政府は朝鮮民主主義人民共和国、台湾とは戦後補償について一切の交渉を行っていないのです。

《戦後補償裁判の争点》

- ①鄭さんの負傷した経緯における日本の朝鮮に対する侵略政策の責任性を考えるならば国籍を問わずに補償されることが当然である。
- ②援護法における国籍条項、戸籍条項の違法性。
- ③日本政府は『戦後補償問題は日韓協定で解決済み』と言う姿勢を一貫しているが
 - ◆しかし協定第2条2（a）は在日韓国人の『財産・権利及び利益』には協定条項の影響を及ぼさないと規定しており、よって在日の戦後補償問題は日韓協定では解決されていないのです。

など・・・

《諸外国における戦後補償》

- ◆ドイツ →連邦補償法など公金による補償約860億マルク、基金の創設、強制労働者に対する民間企業の補償など
- ◆アメリカ→第2次大戦中の日系人強制収容所問題について議会に特別委員会が設けられ、1988年に公式謝罪と補償が盛り込まれた法律「市民自由法」が制定され、謝罪補償が行われている。
- ◆カナダ →日系人強制収容事件に対し1988年9月、マルローニ首相と全カナダ日系人協会との協議の結果、一人あたり約230万円の補償金、日系人協会に対し約1億3200万円が支払われる。「カナダ人種関係基金」設立。
- ◆ソ連 →「シベリア抑留問題」の見直しが始まる。

《裁判の状況》

5月28日戦後補償裁判が大阪地裁第802号法廷で始まりました。

『日本国民は戦後補償を受け取っているから、戦争は終わったとばかり思っているらしいですが、日本人同様日本国のために働いて来たのに、日本政府からも韓国政府からも戦争がおわりましたとして、いまだに葉書一枚もありません。』

この事実を見ましても私には第2次世界大戦は終わっていません。』

—鄭商根氏の意見陳述より—

これは第1回口頭弁論で鄭さんが裁判官に訴えた意見陳述の一部です。鄭さんは日本政府が戦前、一方的に朝鮮籍を奪って日本国籍を押付け、戦後は知らんふりの態度に対する怒り、無理やり戦争に狩り出しておいて戦後は知らんふりの態度に対する怒りを強く表しました。又20年前の『日韓条約』や今年1月の『日韓覚書』では在日韓国・朝鮮人の戦後補償問題は何も解決していないことを訴えました。

一方日本政府はこの日、鄭さんの提訴に対し、『棄却を求めるものである』と言う答弁を出したのみで、鄭さんが補償を受けていないことについての実質的な説明は何らなされませんでした。

第2回口頭弁論は7月23日 国側答弁書提出

《鄭商根さんの戦後補償を支える会の活動について》

①支える会の結成経過

鄭さんが大阪地裁に提訴した1月31日、中の島中央公会堂において『在日韓国・朝鮮人の戦後補償を求める集会』が行われました。会場には100人が集まり、鄭さんのアピールを受けて『この裁判には勝たなければ』『鄭さんの裁判を支えよう』と言う気持ちを強くしました。そしてこの日の参加者が声をかけあい『支える会』を結成したのです。

②『支える会』の活動の柱

- 1) 鄭さんの戦後補償を求める訴えを一人でも多くの人に訴える。
- 2) 裁判費用と裁判を支援するための資金を集める。
- 3) 在日韓国・朝鮮人、台湾人の戦争犠牲者に対する謝罪と補償を日本政府に求める。
- 4) 『在日の戦後補償を求める会』と協力し、戦後補償を求める運動を全国的な運動に広げてゆく。

③今までの活動

民族団体をはじめとする様々な組織や個人に会員協力を要請。

1991年 1月31日 支える会結成

3月23日 戦後補償裁判弁護団合同学習会
(講師・田中宏先生)

5月23日 街頭宣伝活動ピラマキ (JR大阪駅)

24日 " (JR天王寺駅)

25日 " (JR鶴橋駅・桃谷駅)

28日 第1回口頭弁論 (参加者60名)

30日 鄭商根さんの戦後補償裁判を支える会5・30集会(参加者約70名)

7月23日 第2回口頭弁論

KOYOZEN

- フィールドワーク・ガイド -

★ フィールドワーク

☞ 日 時 - 7月28日 (日曜日)

集合場所 - 西宮市甲陽園小学校

出発時間 - ①午前9時 (前日からの宿泊者のみ)

②10時30分

★ セレモニー & ミニコンサート

☞ トンネル内で献花など簡単な追悼のセレモニーをします。

また第一回目だけ詩朗読と独唱のミニコンサートを行います。

★ ガイド

☞ ・ 民家の屋敷内を通りますので個人では入れません。必ず

①または②のどちらかに合わせて集合して下さい。

・ 映画「アリランうた」は10時 0分より甲陽園小学校で上映されます。

・ フィールドワーク、映画がすんで同じ所でまとめの全体集会が開かれます。全員ご参加を！

甲陽園 地下工場

- 現在も残っている
- 発見、陥没でなくなった
- ▨ 未確認のため不明



「紫電改」をつくった川西航空機

日本の航空機総機数の3パーセントを生産していた川西航空機は、トップメーカーの中島飛行機に次いで2番目に政府直轄の軍需工場になったが、それには理由があった。

「本土決戦」用の戦闘機「紫電改」を造り出したからである。

川西航空機は日本政府軍需省の方針に従って拡張を重ね、兵庫県内に4つの近代的な設備を誇る大規模工場を有し従業員6万5千人の第二軍需工場に発展した。



川西航空機本社及び鳴尾工場

☆ 略年表 (「社史新明和工業株式会社」より)

- | | | |
|---------|-------|--|
| 1920 | | 神戸で川西機械製作所設立、飛行機部設置。 |
| 1928 | | 川西航空機株式会社設立。海軍指定工場となる。 |
| 1930 | | 武庫郡鳴尾村に本社及び工場を移転し主として海軍の水
上機や飛行艇を製作する。 |
| 1941 | | 武庫郡良元村に宝塚製作所開設。 |
| 1942 | | 武庫郡本庄村に甲南製作所を開設、局地戦闘機「紫電」
.....の量産開始。姫路製作所開設。 |
| 1943 | | 「紫電改」の量産開始、鳴尾飛行場開設。 |
| 1944・11 | | 疎開本部設置、姫路製作所鶏野工場開設。 |
| 1945・1 | | 覆土式横穴式工場建設工場着手。 |
| | 7 | 第二軍需工場となり生産設備はすべて国に移管される。 |
| | 8 | 敗戦により軍需工場解散。 |
| 1960 | | 新明和工業株式会社となり日立製作所の系列下に入る。 |

高級住宅地の下にねむる 地下工場・海軍地下施設

何故甲陽園がトンネルの建設地に？

米軍機による日本本土への空襲が日増しに激しくなる中で、川西航空機は正明寺（福知山市）、石原（同）、北条（加西市）、苦楽園（西宮市）、甲陽園（同）の5カ所に地下工場をつくった。

阪神間でも指折りの高級住宅地として知られる甲陽園。その下にねむっていた地下工場が初めて人々の前にその姿を現したのは1987年の秋であった。

甲陽園が川西の地下工場の中でも最も難工事であったことは、一度トンネルに入っていれば想像がつく。岩質は六甲山特有の花崗岩で硬く掘削は容易ではない。その上斜めに断層があり所々亀裂が走っていて落盤の危険も多い。

一見すれば地下工場には不向きのような甲陽園が建設地に選ばれたのは、先ず川西の4つの工場のうち鳴尾、宝塚、甲南の3工場からいずれも数キロの地点であり、機械、資材、人員の移動が容易であったことが考えられる。また大阪海軍警備府が疎開して来る予定で建設され、敗戦間際に司令官室が完成したという元設営隊員や工事を請負った建設会社元現場事務員の証言もある。



調査を進めて見て、トンネルは広い甲陽園一帯7カ所に合計31本が掘られたことが明らかになった。始めから地下工場・軍用施設の二つの目的で着工されたのか、それとも地下工場の予定あったのが米軍の沖縄上陸など急を告げる戦局の中で、「本土決戦」に備えるべく海岸に近い甲陽園が海軍の地下施設に転用されたのか。調査はまだその真相を解明するまでには至っていない。

海軍施設部の事務所が駅近くの大池のそばにあったこと。甲陽園の旅館はほとんど海軍に接収されていたこと。通信機がトンネルに運び込まれていたこと。広田神社参道の松並木の下に上陸用舟艇が隠されていたことなど、とにかく甲陽園には海軍にまつわる話が多い。

トンネルの掘削工事は朝鮮人

「紫電改」は「本土決戦」用の海軍の「虎の子」戦闘機であった。そのためか川西航空機の5つの地下工場建設を担当したのもまたすべて海軍設営隊であった。

甲陽園では海軍第200設営隊の下で建設大手5社が請負っていたが、実際に現場で工事を進めたのはほとんどが朝鮮人であった。五百人とも二千人ともいわれているが正確な数は不明である。彼等の中には朝鮮で野良仕事をしているところを「オイオイ」と呼ばれ、そのままトラックに乗せられて行き先も分からず連行されて来た者もいたという。ハッパの音が終日谷間にとどろき渡り、落盤事故で怪我人や死亡者も出たといわれているが詳しいことは何一つ分かっていない。



甲陽園西山町の地下トンネルに残るレール

「朝鮮國獨立」の文字が残る トンネルの保存を！

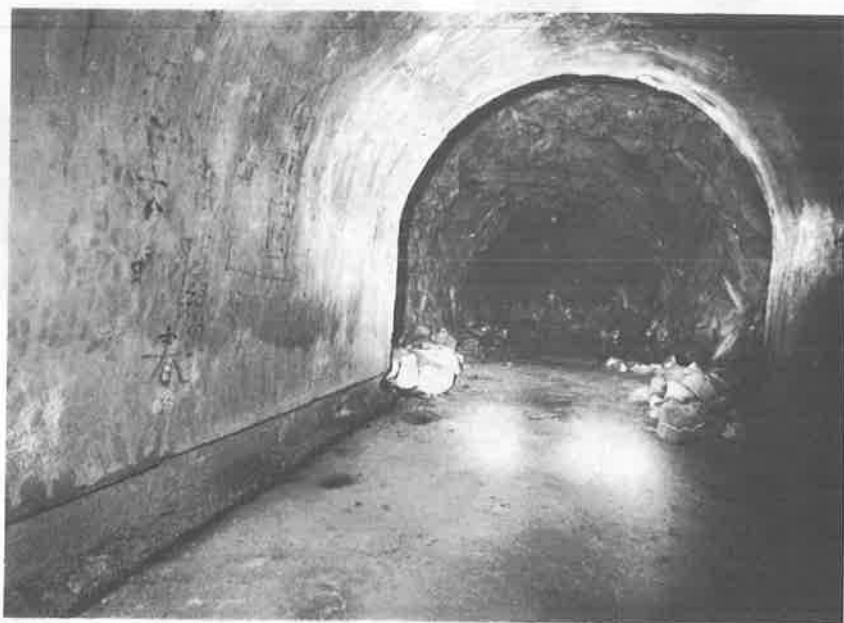
全国には数多くの地下トンネルがあるが、壁に書かれた文字が長い歳月を経たいまも鮮やかに残っている所は他に例がない。

1988年3月に結成された「戦争を記録する西宮市民の会」（代表 小田実）は、資料の収集、現地調査と聞き取り、学習会、各地グループとの交流、東海地方へのトンネルバスツアーなどの活動を進めながら、西宮市に対して調査とトンネルの保存を繰り返して要請して来た。

西宮市も情報の収集を行なう一方で調査費1500万円を計上して地質地形の調査、写真と記録映像の撮影、文字表面の樹脂加工の予備調査などを行なった。しかしトンネルの保存問題は前進していないのが現状である。

次代に伝えるべき貴重な歴史遺構であるトンネルを保存するために、さらに力強い運動を推し進めることが望まれているのである。

（文責 兵朝研、鄭）



「朝鮮國獨立」の文字があるトンネル

ア リ ラン

アリランのうた

オキナワからの証言

監督 朴 壽南

撮影：大津幸四郎／宮内一徳

編集：富塚良一

音楽：原 正美

声（ア）：名唱・陳 奉圭

：名唱・朴 倫初

版画：儀間比呂志

題字：申 英愛

制作：『アリランのうた』制作委員会

協力：『アリランのうた』を創る会

1991年／カラー／16ミリ／1時間40分



アリラン オキナワからの証言



監督 朴 壽南
制作 「アリランのうた」
制作委員会

1991年/カラー
16ミリ/1時間40分

【版権】集間出品志「題字」申 英堂

各地上映会の予定

どうぞ上映で協力ください。
お知合いの方ぜひお誘い
ください。()は連続です。

制作費カンパのお願い

この映画には一億円近い制作費用がかかりました。多くの方のあたたの借入金をご協力により、ようやく完成にこぎつけましたが、まだ数千万円の借入金をかかえております。どうぞ制作費カンパにご協力くださいませ

郵便振替横浜 7-63276 「アリランのうた」制作委員会

沖縄戦の戦火の中へ強制連行された朝鮮人「軍夫」「慰安婦」をえがく

▼朝鮮人「軍夫」だけでなく沖縄の人も殺した沖縄の軍人もいました。……同胞でさえ殺さざるを得ないところへ迫いつめられていく彼がどうしてつくられていったのか。皇民化教育をうけ、沖縄人としてでなく、期待される帝国軍人天皇の赤子としてつくられていった人格……▼とてもつらいですよ、「慰安婦」だった女性たちの真実にせまっていくなのは。体がふるえます。自分自身が汚辱と屈辱に、私自身がちりぢりに引き裂かれ、思いがして。でもやはり彼女たちの怨念というか、これを歴史の光にあてませんとね

朴壽南監督インタビューより

映画にでてくる「軍夫」「慰安婦」の、沈黙の中から向けられるまなざしは、鋭く問うておられます。戦争とは何であるのか。私につながる歴史とは何であるのか。

沖縄戦に強制連行された朝鮮人の青年は少なくとも1万人にのぼると考えられます。「特設水上勤務隊」というかたちで、武器を与えられず、避難壕を掘ったり弾薬や特攻艇を運搬する作業をさせられました。重労働のうえ、わずかの食糧しか与えられず、阿嘉島では「食糧を盗んだ」として13人が虐殺されています。

またされたり強制的に連行されたりして、激戦地で「慰安婦」にさせられた朝鮮人女性の数は、千人以上と考えられます。本島だけでなく、渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、宮古島などにも、女性たちがいたことがわかっています。避難壕や原生林の中にも「慰安所」がおかれ住民が艦砲射撃の中を逃げまどいていた時期に、「慰安婦」と「遊んでいた」軍人を見たという証言も少なくありません。

8/1長崎市勤労福祉会館(大城洋 ☎0957-24-0210)・8/2クレヨンハウス(同 ☎03-3406-6492)・8/3曳船文化センター(東京事務局 ☎03-3813-7813)、兵庫共済会館(渡部敏夫 ☎078-811-9988)・8/11石水会館(宮西いづみ ☎0592-24-0549)・8/12都城城南教会(富田千鳥 ☎0986-22-5175)・8/15-17大分市コンパルホール(島田雅美 ☎0975-51-3252)・8/29-30箕面メイプルホール(浅田日出彦 ☎0797-87-3726)・9/8-9 KCCホール(北川規美子 ☎06-751-8204)・9/14京都ルネッサンスホール(☎075-822-7123)・9/21甲府市総合市民会館(田中美砂 ☎0552-32-0430)、豊中市立婦人会館(田坂恵美子 ☎06-854-2673)

地域・学校・職場で上映を

上映にかんずくのお問い合わせは、

「アリランのうた」制作委員会

東京都文京区本郷 1-5-1 7 三洋ビル 4 3

☎03-3813-7813 fax 3815-8547

賛同団体紹介＜目次＞

| ： 都道府県 ： | 団体名 | ： NO ： |
|----------|--------------------------------------|--------|
| 新潟県 | 中津川朝鮮人虐殺など調査実行委員会・上越 | 49 |
| 群馬県 | 旧中島飛行機太田地下工場を保存する会（トンネルの会） | 13 |
| 福島県 | (有)大塚物産附属朝鮮研究所 | 8 |
| 千葉県 | 千葉県朝鮮人強制連行真相調査団 | 44 |
| 東京都 | アジア問題研究会 | 3 |
| | 外国籍市民の人権を考える八王子の会 | 9 |
| | 強制連行問題全国連絡会議 | 15 |
| | 在日韓国民民主女性会 | 21 |
| | 在日韓国民民主人権協議会（民権協） | 22 |
| | 在日朝鮮人運動史研究会・関東部会 | 24 |
| | 指紋カードをなくせ！90年協議会 | 32 |
| | 鐘声の会 | 36 |
| | 従軍慰安婦問題を考える在日同胞女性の会 | 35 |
| | 戦後補償問題研究会 | 39 |
| | 中国人強制連行を考える会 | 45 |
| | 日本社会党中央本部 | 55 |
| | 日本の戦争責任を肩代わりさせられた朝鮮人BC級戦犯を支える会 | 56 |
| | 八王子の地下壕問題を考える会 | 58 |
| | ビデオプレス | 62 |
| | 松代大本営を考える会 | 72 |
| | RAIK（在日韓国人問題研究所） | 81 |
| 神奈川県 | 相模湖ダム of 歴史を記録する会 | 27 |
| | 日吉台地下壕保存の会 | 68 |
| 長野県 | 篠ノ井旭高校郷土班 | 31 |
| | 松代大本営の保存をすすめる会 | 71 |
| 静岡県 | ミラノ書店 | 77 |
| 愛知県 | 愛知県下の朝鮮人強制連行歴史調査班 | 1 |
| | あるすの会 | 5 |
| | 在日朝鮮人作家を読む会 | 23 |
| | 豊橋日中友好協会 | 48 |
| | ＜ノーモア南京＞名古屋の会 | 57 |
| | 半田空襲と戦争を記録する会 | 60 |
| | ピットムの会 | 61 |
| 三重県 | 在日韓国・朝鮮人の人権を考える会 | 18 |
| | 三重在日朝鮮人史研究会 | 75 |
| | 三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裴相度）の追悼碑を建立する会 | 74 |
| 奈良県 | 奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会 | 50 |
| 京都府 | 地上げ反対！ウトロを守る会 | 29 |
| | マンガン鉱山史を記録する会 | 73 |
| 大阪府 | アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む会 | 2 |
| | アジア・フレンド | 4 |
| | ウリ文化研究所（大阪） | 6 |
| | 大阪府朝鮮人強制連行真相調査団 | 7 |

賛同団体紹介＜目次＞

| ： 都道府県 ： | 団体名 | ： NO : |
|----------|------------------------|--------|
| 大阪府 | 外登法問題と人権を考える会 | 11 |
| | 国際在日韓国・朝鮮人研究会 | 17 |
| | 在日韓国青年連合（韓育連） | 20 |
| | 在日韓国研究所（HANYUN） | 19 |
| | 在日ハン民族問題研究所 | 26 |
| | 従軍慰安婦問題を考える会 | 34 |
| | 青丘文化ホール | 37 |
| | 聖和社会館 | 38 |
| | 高槻「タチソ戦跡」保存の会 | 41 |
| | 高槻むくげの会 | 42 |
| | 花岡蜂起！！問題にこだわる会（大阪） | 59 |
| 兵庫県 | 神戸学生青年センター | 16 |
| | 兵庫県韓国人三民会 | 28 |
| | 在日朝鮮人運動史研究会・関西部会 | 25 |
| | 戦争の記録を残す西宮市民の会 | 40 |
| | 宝塚市教職員組合 | 43 |
| | 西宮在日韓国朝鮮人教育を考える会 | 51 |
| | 西宮地方労働組合協議会 | 53 |
| | 西宮市教職員組合 | 52 |
| | 日本基督教団兵庫教区社会部 | 54 |
| | 姫路朝鮮問題研究会 | 63 |
| | 兵庫在日朝鮮人教育を考える会 | 64 |
| | 兵庫朝鮮関係研究会 | 65 |
| | 兵庫県・在日朝鮮人の人権を守る会 | 66 |
| | 兵庫在日外国人保護者の会 | 67 |
| | 南兵庫郵便局部落解放研究会連絡会議 | 76 |
| | 民族差別と闘う兵庫連絡協議会 | 78 |
| | むくげの会 | 79 |
| | 毛沢東思想学院 | 80 |
| 岡山県 | 亀島山地下工場を語りつぐ会 | 12 |
| 広島県 | 広島キリスト教社会館 | 69 |
| | 広島の強制連行を調査する会 | 70 |
| | 6・30花岡の会 | 82 |
| 山口県 | 長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会 | 46 |
| 香川県 | 四国学院労働組合 | 30 |
| 徳島県 | 徳島県朝鮮人強制連行真相調査団 | 47 |
| 福岡県 | 外登法抜本改正・民族差別撤廃をめざす福岡の会 | 10 |
| | 強制連行の足跡を若者とたどる旅 | 14 |
| 熊本県 | 指紋押捺制度を考える熊本の会 | 33 |

<個人>

青木 康嘉（岡山県）金 相 基（東京都）金 恵美子（大阪府）
 小林 久公（北海道）澤田 純三（富山県）劉 喜 亘（大阪府）
 中原 憲明（山口県）

| | |
|---|-------------------------|
| <p>1 愛知県下の朝鮮人強制連行歴史調査班
〒464 名古屋市千種区希望ヶ丘1-5-37 高橋気付
あいち Tel 052-762-1528</p> | <p><代表者>高橋 信</p> |
| <p>2 アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む会
〒558 大阪市浪速区塩草2-2-1 ニュー神田マンション401号
あじあたい Tel 06-582-7740</p> | <p><代表者>上杉 聰</p> |
| <p>3 アジア問題研究会
〒101 東京都千代田区猿樂町2-5-8 葵ビル301
あじあもん Tel 03-3291-3774 FAX 03-3291-3774
私たちの会は1982年に発足して以来、韓国・フィリピンをはじめアジア民衆との友好・連帯をめざして活動を行ってきました。とりわけ韓国民衆の自主・民主・統一の闘い、韓国民主労働運動との連帯を重視し、また日本と韓国・朝鮮半島の過去と現在を貫いた関係の在り様を一步いっば変えていくために、東京での日韓民衆連帯運動の一翼を担って活動を続けています。この視点から、日本の戦争戦後責任も問い続けていきたいと思っています。
《単行本等》『ア問研通信』</p> | <p><代表者>渡辺 健樹</p> |
| <p>4 アジアン・フレンド
〒557 大阪市西成区萩之茶屋2-8-9 旅路の里気付
あじあん Tel 06-634-2127 FAX 06-634-2129
戦前、強制連行に先立って、朝鮮半島から多くの出稼ぎ労働者がブローカー等によって、日本で低賃金・暴力・監禁などの人権侵害にさらされていました。また、彼らは日本社会の様々な差別偏見にあいながら、生き抜いてきました。今、新たにアジア各国からやって来た出稼ぎ労働者が、同じ状況に立たされています。私達は、1988年、彼ら、彼女らの支援の活動を開始。相談電話の開設、労働者および日本人に対しての宣伝が主な活動です。
《単行本等》『アジアンフレンド』</p> | <p><代表者>水野阿修羅</p> |
| <p>5 あるすの会
〒461 名古屋市東区葵2-6-29 福信館気付
あるす Tel 052-935-9448</p> | |
| <p>6 ウリ文化研究所(大阪)
大阪市生野区中川西2-6-10 KCC内
うりぶん Tel 06-717-2653</p> | |
| <p>7 大阪府朝鮮人強制連行真相調査団
〒530 大阪市北区西天満6-6-11 高千穂ビル2F 空野法律事務所
おおさかふ Tel 06-361-5488 FAX 06-361-5486</p> | <p><代表者>岡村 達雄</p> |

8 (株)大塚物産附属朝鮮研究所

<代表者>大塚 一二

〒970-11 福島県いわき市好間町中好間照田40

おまつ

Tel 0248-36-2357

数少ない原資料ですが朝鮮人移入、労働、帰国、平事件等に関する官公署文書、一部GHQ資料(浮島丸)を保存しています。平成3年2月21日衆院予算委員会、3月11日衆院予算第4分科会に、当研究所資料が提示され、国会の場で朝鮮人強制連行問題が資料中心に論議され、朝日友好に役立てていただきました。乞われて市外の研究もお手伝いしています。最近ではむつ市中心の下北半島の証であります。

9 外国籍市民の人権を考える八王子の会

<代表者>豊島 直人

〒193 八王子市めじろ台2-1 A404 豊島方

めいこ

Tel 0426-64-1656

10 外登法抜本改正・民族差別撤廃をめざす福岡の会

<代表者>青柳 行信

〒811-01 福岡県糟屋郡新宮町上府1592-426 李幸宏気付

めいこ

Tel 092-963-2684 FAX 092-963-2684

会の名前のとおり、外登法の抜本改正・民族差別撤廃にむけてボチボチ活動しています。1985年から活動していた「指紋押捺を考える会」、1987年結成した「李幸宏君の裁判を共にすすめる会」が、88年に合併してできた会です。最近は、不十分な動きしかできないことが多く、政府の動きにいらだちを感じつつ、まああせってもしょうがないと歩んでいるところです。

《単行本等》『なくそう民族差別Q&A』

11 外登法問題と人権を考える会

<代表者>松浦 悟郎

〒540 大阪市中央区玉造2-24-22 大阪カトリック神学院内

めいこ

Tel 06-941-9700 FAX 06-946-1345

会の設立は1986年12月。指紋押捺拒否運動が全国的に広がり、カトリック・プロテスタントを問わず、キリスト教会同志が運動を通して連がりを持ち、又、市民団体とも連帯しながら運動を進めてきました。会の活動としては、2ヵ月に1回「ニュースレター」を発行、年に2回程度ですが、外登法に関する集会をひらいています。今年の2月にはカトリック教職員の為の集会を開き、更に運動の輪を広げつつあります。

12 亀島山地下工場を語りつくす会

岡山県倉敷市水島南春日町23-1 倉敷医療生活協同組合内

かゆ

Tel 0864-48-6210

《単行本等》『掘りおこされる戦争の傷跡・亀島山地下工場』

13 旧中島飛行機太田地下工場を保存する会(トンネルの会)

<代表者>細野 展夫

群馬県太田市八幡町36-30 紋 治呂方

おまつ

Tel 0276-22-1526

現在会員40名。月一回の定例会を開いているが出席するのは7~8名。現在、市は形式的な「保存」でお茶を濁そうとしているので、市民として、キッチリした対応を出すための討論会の開催を考えているが、なかなか動きが出てこない。今年中に「キムの十字架」の上映会などの中で、徐々に話を拡げ、雰囲気をつくってゆきたい。保存を歴史的に見た文化財として「文化財申請」などもおこなってみるつもりだが私有地だけにむづかしさ。

《単行本等》まだ出来たばかりで何も刊行していない。今後何らかの形で歴史、市民の意見などのせたパンフのようなものを出せればと考えている。

14 強制連行の足跡を若者とたどる旅

<代表者>加藤 慶二

〒806 福岡県北九州市八幡西区西神原町4-22

きょうせい

Tel 093-521-2073

在日一世（生き証人）が1割を切った今、強制連行の足跡（現場）が次々ととり壊されていく。今、若者の目が耳が肌が日本国と日本人が犯した「負の歴史」をたどる。釜山→大邱→天安→ソウル→下関→北九州→筑豊→長崎→熊本→大牟田→大村への9日の旅。若者は初めて知った歴史の事実泣き、叫び、うめき、うなされる。しかし彼らは旅の中で虐待や差別に屈せず堂々と生き闘ってきた人間の姿を発見する。今年、三回目を迎える。

《単行本等》『強制連行の足跡を若者とたどる旅』（パンフ、文集、ビデオ）

15 強制連行問題全国連絡会議

東京都千代田区永田町1-8-1 社会文化会館内

きょうせい

Tel 03-3502-4040

16 神戸学生青年センター

<代表者>河上 民雄

〒857 神戸市灘区山田町3-1-1

こうべ

Tel 078-851-2780 FAX 078-821-5878

1972年に日本キリスト教団によって作られた財団法人で、出会いの場として広く市民に開かれている。①食品公害セミナー、②現代キリスト教セミナー、③朝鮮史セミナー等を主催している。何冊かの講演録も発行している。兵庫指紋拒否を共に闘う連絡会（略称／兵指共）等、市民運動のセンターとしての役割も果たしており、今回の「第2回交流集会」の事務局を担当している。

《単行本等》『解放後の在日朝鮮人運動』（梶村秀樹）、『現在の在日朝鮮人問題』（田中宏他）、『サラム宣言』（梁泰昊）、『天皇制と朝鮮』（朴慶植他）、『体歌で語る解放後の在日朝鮮人運動』（朴慶植他）、『在日朝鮮人・生活擁護の闘い—神戸1950年「11・27」闘争—』（金慶海・堀内稔編著、近刊）、『1991朝鮮人・中国人強制連行強制労働資料集』（金英達・飛田雄一編）

17 国際在日韓国・朝鮮人研究会

<代表者>徐 龍 達

〒542 大阪市中央区上本町西5-2-8-201 コリア・ファミリー・サークル気付

こくさい

Tel 06-762-0300 FAX 06-762-1801

在日韓朝鮮人問題を国際世論に訴え、その声を日本政府、日本人に反映させる研究団体。人権意識の昂揚、差別の撤廃、多民族社会の確立と発展、「共生」社会と真の国際化の実現を目指す。正会員82名、賛助会員123人、会員総数205人。会長—徐龍達、副会長—朴大榮、理事—江橋崇、李仁夏、田中宏、姜在彦、李清一、韓鶴雪嶺、韓哲嶺、幹事—權泰殷、姜文圭、常任理事—康誠凱、梁泰昊。国籍、信条、性別を問わず入会を歓迎する。

《単行本等》①『国際人権と在日韓国・朝鮮人』②『定住外国人の地方自治体参政権』③『戦後責任の再検討』

18 在日韓国・朝鮮人の人権を考える会

<代表者>竹本 昇

〒518-01 三重県上野市下郡53-3 竹本 昇方

まいにちか

Tel 0595-36-2167 FAX 0595-36-2859

19 在日韓国研究所（HANYUN）

<代表者>金 光 男

〒543 大阪市天王寺区玉造元町4-2

まいにちか

Tel 06-765-9326 FAX 06-765-9323

20 在日韓国青年連合(韓青連)

<代表者>宋梧、姜公晴、裴雅登

〒544 大阪市生野区桃谷1-7-16

さいにちか

Tel 06-718-0581 FAX 06-718-0582

私達韓青連は、民団同胞大衆に立脚しながら、①韓国の民主化、祖国の自主平和統一②在日同胞の民族的權益の擁護③世界の平和と進歩、に貢献しうる生き生きとした在日同胞2・3世の自主的青年大衆組織として、今年2月3日に結成・出帆しました。現在、大阪・京都・兵庫を中心にした9支部で、地域同胞青年と共に韓国語・民族史などの日常的学習を土台に上記の目標を実現するために活発な活動を展開しています。

《単行本等》『韓青連通信』

21 在日韓国民民主女性会

<代表者>金 知 栄

〒101 東京都千代田区神田小川町3-6-8 伸幸ビル5階

さいにちか

Tel 03-3285-2638

在日韓国人女性として、私たち一人ひとりが民族意識を高めあいたい。女が女であることで差別されない社会をつくりたい。いま祖国で何が起こっているのか知りたい。そしてもう一つの主体として祖国の統一のために寄与したい。こんな思いを胸に女性たちが集まり、学習会やチャングサークルなどを行なっています。

《単行本等》パンフレット『韓国女性問題資料集』(1号〜8号)

22 在日韓国民主人権協議会(民権協)

<代表者>金泰明/金潤哲/高正臣

〒113 東京都文京区本郷2-26-9 鈴木ビル4F

さいにちか

Tel 03-5689-8638 FAX 03-5689-8639

私たちは、90年10月、20〜30代の在日同胞2・3世が中心となって発足した組織です。政治犯の釈放や労働者・市民の基本的人権の保障など韓国での民主主義・人権の確立と朝鮮半島の平和と統一の実現、そして在日同胞の人権向上を目指して活動しています。東京と大阪に事務所を置き、機関誌「民権協ニュース」の発行や集会・公開講座、署名など、さまざまな取り組みを行なっています。どうぞ気軽に声をかけて下さい。

《単行本等》『民権協ニュース』

23 在日朝鮮人作家を読む会

<代表者>磯貝 治良

〒452 愛知県西春日井郡枇杷島町大和町152 磯貝治良方

さいにちか

Tel 052-502-6599

1977年に発足。月1回、在日朝鮮韓国人による文学作品などの書物をテキストに例会を行ない随時、講演会、フィールドワークなども実施。日本人と「在日」がほぼ半々に参加。文学を通しての日本と朝鮮韓国の交流、書き手の発掘、文化の創造活動をめざしています。最近、名古屋に誕生したマダン劇グループにも参加。文化活動だけではなく、反外登法運動、強制連行などの歴史の問題などにも幅広くかかわっている。ふだん着の会。

《単行本等》文芸誌『架橋』

24 在日朝鮮人運動史研究会・関東部会

<代表者>朴 慶 植

〒182 東京都調布市深大寺元町1-24-3 アジア問題研究所内

さいにちか

Tel 0424-82-7012

在日朝鮮人の日本における歴史的立場づけ、社会的評価が正しく行なわれていない状況のもとで、その歴史的、個別的な研究、資料の蒐集とくに体験の聞き取りなどを目的に1978年6月東京で会を発足させた。79年に神戸にも会をつくったので関東・関西部会に発展する。運動史、生活・教育問題、日本当局の政策問題、強制連行など多方面の研究報告と書評による毎月の例会をもっている。会誌『在日朝鮮人史研究』は20号まで刊行。

《単行本等》『在日朝鮮人史研究』(1〜20号)

- 25 在日朝鮮人運動史研究会・関西部会 ＜代表者＞飛田 雄一
 〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1 メゾン・ド青丘ビル2階 青丘文庫内
 さいにちろ2 Tel 078-734-5989 FAX 078-735-0860
 1979年に関東での研究会の関西部会として発足。月一回、原則として第二日曜日に青丘文庫(神戸市須磨区)で研究会を行なっている。成果を会誌『在日朝鮮人史研究』に発表している。本年2月、関西部会の創立12周年のシンポジウム「在日朝鮮人史研究の現段階」を開催し『資料集』(B5、52頁)を発行した。広く会員を募集している。
 《単行本等》『シンポジウム・在日朝鮮人史研究の現段階』
- 26 在日ハン民族問題研究所 ＜代表者＞朴 炳 閔
 〒554 大阪市此花区高見1-3-31-1202
 さいにちほ Tel 06-461-0456 FAX 06-461-0457
 《単行本等》『91年問題をどうとらえるか』(1989年4月)、『民族学校の教育現況と問題点』(89年7月)、『91年法的地位再協議』(90年3月)、『91年問題の政治決着と在日同胞の今後の運動方向』(91年5月)
- 27 相模湖ダムの歴史を記録する会 ＜代表者＞高村 雅博
 〒199-02 神奈川県津久井郡藤野町佐野川3387-4 高村方
 さがみこ Tel 04268-7-2142
- 28 兵庫県韓国人三民会 ＜代表者＞林 茂 男
 〒653 神戸市長田区大道通4-3-2
 さんみんかい Tel 078-612-8660 FAX 078-612-8660
 兵庫県内の在日二世の会です。主に、三世・四世の民族教育や、在日のあり方などを考え、諸活動を行なっています。主な行事はオリニキャンプ、オリニスキー講習会、長田マダン賛助等です。
- 29 地上げ反対!ウトロを守る会 ＜代表者＞榎田勲/樋口謹一/横川栄次
 〒611 京都府宇治市小倉町西山74-19 横川栄次方
 じふてい Tel 0774-21-3787
 戦前、国策の京都飛行場建設で働いていた朝鮮人は、日本の敗戦と同時に何の補償もなく放置された。以来飯場の地、宇治市のウトロで生き抜いてきたが、今になって土地明け渡し裁判の被告とされている。戦前から一貫して土地の名義人だった日産車体の土地売却が原因となっている。守る会はこの否定的な戦後処理を見逃さず、「立派な町づくりをして子や子孫に引き継ごう」と闘っているウトロ住民を心から支援し、協力する会です。
 《単行本等》写真集『この土地に生きる』パンフ『MESSAGES from ウトロ』スライド『この土地に生きる』
- 30 四国学院労働組合 ＜代表者＞東條 文規
 〒785 香川県善通寺市文京町3-2-1
 しこく Tel 0877-62-2111

31 篠ノ井旭高校郷土班

<代表者>土屋 光男

長野市篠ノ井御幣川1045

しのめい

Tel 0282-92-0726

32 指紋カードをなくせ! 90年協議会

〒101 東京都千代田区三崎町2-2-13 信愛ビル502

しもん

Tel 03-3221-8086

33 指紋押捺制度を考える熊本の会

<代表者>小松 裕

〒880 熊本市手取本町8-3 熊本県同教気付

しもん

Tel 096-325-2433

1984年に、指紋押捺拒否者を支援する組織として出発した市民グループです。外登法の改正に向けた行政交渉や拒否者と連帯する集会などを開いてきました。最近、地元における朝鮮人の歴史の掘り起こしの作業に手をつけはじめました。戦前、戦後の熊本各地で沢山の朝鮮人労働者が苦役を強いられた足跡が少しづつ見えはじめています。全国の仲間の皆様の取り組みに学びたいと考えています。

《単行本等》『指紋押捺-「在日」との共生をめざして-』第三集

34 従軍慰安婦問題を考える会

<代表者>朴 美津子

大阪市福島区大開4-3-2-305

じゅうぐん

Tel 06-461-5325

私たちは、在日2世3世の在日韓国人女性です。植民地下、民族を奪われ、性を蹂躪されるという二重の苦しみを与えられた従軍慰安婦問題は、在日の女である私たちにとって自らの存在の原点であると考えます。これを①戦後処理問題、②民族差別、③性差別の3つの問題としてとらえ、現在もなおざりにされている課題として取り組んでゆこうと考え、パンフを発行し、この夏、講演会を企画しています。

35 従軍慰安婦問題を考える在日同胞女性の会

〒157 東京都世田谷区南烏山2-36-20 第1乙黒ビル4階気付

じゅうぐん

Tel 03-3300-4157 FAX 03-3300-4157

36 鐘声の会

<代表者>高柳 俊男

〒174 東京都板橋区東山町36-10 若竹荘5号 高柳方

しょうせい

Tel 03-3958-1987

NHKに朝鮮語講座を要望する署名運動に集まった日本人と朝鮮人により、1977年に結成。以後14年間、メンバーは大幅に変わりつつも、朝鮮に関する読書会(週例会・月例会)を軸に活動を継続している。現在の月例会は、①読書会(今期の統一テーマは「現在(いま)を生きる在日」)、②朝鮮に関する映画上映、③個人の研究発表、④歩いて知る東京の中の朝鮮(ハイキング)の四本立て。その報告を中心に、『鐘声通信』を月刊で発行している。

《単行本等》『鐘声通信』(月刊)パンフ『歩いて知る東京の中の朝鮮(見学のてびき)』

37 青丘文化ホール

<代表者> 辛 基 秀

〒543 大阪市天王寺区寺田町2-8-28
Tel 06-779-5751 FAX 06-779-5751

せいきゅう

38 聖和社会館

<代表者> 金 徳 煥

〒544 大阪市生野区桃谷5-10-29
Tel 06-741-0650

せいしや

39 戦後補償問題研究会

<代表者> 姜 在 彦

〒162 東京都新宿区四谷3-3 エスパコンセール701 ウリ法律事務所内
Tel 03-3359-8831 FAX 03-3359-8832

せんご

在日韓国・朝鮮人の戦争犠牲者とその家族は高齢化し、その老後保障は急を要します。戦後、戦後補償から韓国・朝鮮人を排除した日本政府の不合理的な政策を正すため、戦後補償問題を歴史的、法理的に研究調査して、シンポジウムの開催、単行本・資料集の刊行を通じ、法廷闘争の支援と立法化の運動をしています。昨年に引き続き、10月28日に東京銀座のヤマハホールで「太平洋戦争の戦後処理を問う」のシンポジウムを開きます。

《単行本等》『戦後補償問題資料集』（第1集～第5集）『隠された歴史－在日韓国・朝鮮人の戦後補償を考える』（近刊）

40 戦争の記録を残す西宮市民の会

<代表者> 小田 実

兵庫県西宮市津門具羽町9-30 宮林彦吉方
Tel 0798-34-2341

せんそう

1987年11月兵庫県西宮市甲陽園（大阪・神戸でも指折りの高級住宅地）で、「兵庫朝鮮関係研究会」のメンバーによって戦時中の地下工場が発見された。戦後42年間も埋れていたトンネルの壁に「朝鮮国独立」の文字が発見され、朝鮮人強制連行の傷跡が鮮明になった。翌88年2月に、このトンネルを保存し「非核平和宣言」都市西宮の歴史の空白の部分をつめ、戦争を風化させないために「戦争の記録を残す西宮市民の会」が結成され活動している。

41 高槻「タチソ戦跡」保存の会

<代表者> 宇津木秀甫

〒569 大阪府高槻市市殿町10-4 宇津木文化研究所内
Tel 0726-82-0668

たかつぎ

「タチソ」とは、高槻地下倉庫の略。米軍資料によると、朝鮮人強制労働者は3,500人。しかし、実際にはそれ以上の朝鮮人労働者が動員され、家族も含めると「2、3万人いた」という証言もある。タチソの調査・保存活動は1980年代初頭から宇津木氏を中心に始められ、1980年4月、「高槻タチソ戦跡保存の会」を結成。現在は現地調査、犠牲者の調査、労働実態、トンネル保存に向けた行政との折衝等の活動を継続。

《単行本等》『タチソ作戦』（16mm、ビデオ）『戦争の傷跡－地下軍需工場の記録』

42 高槻むくげの会

大阪府高槻市城内町1-35 青少年課分室内
Tel 0726-71-2021 FAX 0726-71-6054

たかつぎむ

43 宝塚市教職員組合

兵庫県宝塚市御殿山2-1-2 勤労福祉会館内

たがわすか

44 千葉県朝鮮人強制連行真相調査団

〒280 千葉市中央1-13-20 千葉県教育会館内

ちばけん

45 中国人強制連行を考える会

<代表者>田中 宏

東京都港区西新橋1-8-7 藤野ビル2F 新橋法律事務所内

ちゅうごく

Tel 03-3508-8588 FAX 03-3581-9035

花岡事件を初めとする中国人強制連行・強制労働についての調査研究。中国側に設立された「花岡事件殉難者遺族联谊会」と連帯し、その鹿島建設に対する公開書簡を支持し、要求の実現に協力する。花岡は、中国人が投入された135の事業場の一つにすぎない。約4万人といわれる中国人強制連行を、日本の侵略戦争のなかに位置づけ、在日中国人ともども日中民衆史の新しい展望を築きたい。

《単行本等》『中国人強制連行と花岡蜂起』『日本の戦争責任は終わらない』『花岡、鉄泥の底から』

46 長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

<代表者>山口 武信

〒755 山口県宇部市鍋倉2-2 澄田方

ちようせい

Tel 0836-21-8238

1942年2月3日、山口県宇部市西岐波の長生炭鉱で、水没事故発生、183名(内131名が朝鮮人)が死亡、今もその遺体は海底に眠ったままである。事故から40年経た1982年4月、地元の有志及び遺族により同炭鉱跡地に「殉難者の碑」が建立された。しかし、それには殉難者の氏名も、多くの朝鮮人が無念の死をとげたことも刻まれてはいない。私達は、「謝罪」の意をこめた史跡碑の建立をめざしている。

47 徳島県朝鮮人強制連行真相調査団

<代表者>樺武夫/金太奎

〒770 徳島県徳島市万代町5-1-7 在日朝鮮人総聯合会徳島県本部内

とくしま

48 豊橋日中友好協会

<代表者>高橋 康夫

〒440-91 愛知県豊橋市 豊橋郵便局私書箱69号

とよはし

Tel 0532-48-4629

49 中津川朝鮮人虐殺など調査実行委員会・上越

<代表者>佐藤 忠治

〒949-31 新潟県中頸城郡大潟町四川屋浜501 佐藤忠治方

なかづがわ

Tel 0255-34-3759

新潟県内の在日朝鮮人・韓国人と日本人が共同して、1922年に起きた中津川発電所工事において多数の朝鮮人が虐殺された真相を調査し、県内に広く報告し、真の朝鮮連帯のあり方を追求しようと3年前に発足した。中津川事件の掘り起こしを契機に、県内各地の発電所・鉄道・鉄

山・工場での朝鮮人強制連行・強制労働の調査を追求している。私達は、この会に所属する上越地区のグループで朝鮮講座を開催の形で進めている。

50 奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会

<代表者>佐々木 一行

〒631 奈良市二名町1925-1-4-105 川瀬方

Tel 0742-45-0862

なら

1990年10月に発足した。奈良県行政に対して朝鮮人強制連行等の資料の公開を求めて交渉をもったほか(90年12月)、月1回の幹事会も定期的に開いている。奈良県内での反差別共同闘争の一つとして位置づけ、広範な参加者をかちとるべく運動を展開している。これまでの主な活動として、①知事引継文書の公開をめざし県議会での質問を行なう②企業保存の資料公開に向けて活動③古老の聞き取りの実施④関係文書の収集—など行なっている。

《単行本等》『会報』

51 西宮在日韓国朝鮮人教育を考える会

<代表者>太田 光一

〒662 兵庫県西宮市高座町1-45 太田方

Tel 0798-73-4027

にしのみや

西宮市内の小中高の学校現場で、個別に取り組みをしていた先生たちがあつまり、1988年春に発足しました。ひとりひとりの実践を持ちより、より充実したものにし、また我々自身の不勉強を反省しながら、月に一度、勉強会や意見交換をする会を、設けています。そして、児童生徒たちに、何を教えていけばいいか、市内公立学校の教育現場に何を求めていけばいいかを、さぐっていています。オモニ、アボジとの交流も積極的におこなっています。

《単行本等》『緑の春』(月一回発行)

52 西宮市教職員組合

<代表者>岩下 彰

〒663 兵庫県西宮市津門呉羽町9-30 教育会館内

Tel 0798-34-2341

にしのみや

西教組は、90年度より「在日韓国・朝鮮人教育部」を設置している。これまでに教研集会で、金賛汀氏、宋秋月氏、新谷英子氏などの講演を聴き、「潤の町」上映、自主編成講座で在日韓国・朝鮮人教育の交流などを行なってきた。また、89年より年二回市内の全幼小中学校児童生徒に約5万部リーフレット「アンニョンハセヨ」を配付し教材として利用している。また、在日韓国・朝鮮人児童生徒を受け持つ担任のための手引書も全教員に配付し活用している。

《単行本等》リーフレット「アンニョンハセヨよりよき隣人として」、別冊アンニョンハセヨ(小冊子)「在日韓国・朝鮮人児童生徒を受け持つ担任のために」

53 西宮地方労働組合協議会

<代表者>岩下 彰

〒662 兵庫県西宮市松原町2-37 西宮市立労働会館内

Tel 0798-22-4225 FAX 0798-22-4225

にしのみや

西宮市内の105組合(平成2年6月30日現在)のうち39組合で構成している協議会組織です。昭和27年(1952年)に結成されて以来38年間地域に働く者のセンターとして様々な取り組みをしてきています。加盟組合の相互支援活動、西宮市行政への要求活動、反戦平和活動等です。現在、連合兵庫の下部組織作りのなかで揺れ動いています。

54 日本基督教団兵庫教区社会部

<代表者>亀田 正己

〒658 神戸市東灘区御影中町2-3-23 クリスチャン・センター内

Tel 078-856-4127 FAX 078-856-4128

にほんきり

在日・日韓の連帯は当委員会の重要なテーマのひとつです。兵庫でも「強制連行の跡」がありますが、自らの歴史を反省しつつ多くの人々に伝えていかなければならないと思っています。当日の「出会い」を楽しみにしています。

55 日本社会党中央本部

〒100 東京都千代田区永田町1-8-1

にほんしゃ

56 日本の戦争責任を肩代わりさせられた朝鮮人BC級戦犯を支える会

〒160 東京都新宿区三栄町八番地三栄ビル 四谷総合法律事務所内 アジア民衆法廷内

にほんの

Tel 03-5379-8619 FAX 03-5379-8619

今年3月に結成したばかりのグループ。日本軍に徴用され、戦後の戦犯裁判で「日本人」として有罪判決を受けたにもかかわらず、日本政府から補償を受けることなく生きてきた韓国・朝鮮人「戦犯」の存在を、日本の戦争責任の問題として考え、活動を始めました。「証言を聞く会」の開催や、当事者に対する聞き取り調査、証言集の発行などを行なってこの問題を広く訴え、日本政府による謝罪と補償の実現を目指しています。

57 <ノーマア南京>名古屋の会

〒467 名古屋市瑞穂区高田町3-28 愛知県立大学 田中宏研究室内

の

Tel 052-851-2191 FAX 052-851-3255

<代表者>水田 洋

58 八王子の地下壕問題を考える会

〒192 東京都八王子市小門町3-4-101 鶴のんぶる舎内

はちおうじ

Tel 0426-23-8197 FAX 0426-23-2319

八王子市浅川町にある浅川地下壕の保存運動を進めています。会員は地元の人々が中心、昨年、当会が八王子市議会に出した「浅川大地下壕の保存と平和資料館建設」の請願が今年の3月議会で可決採択されました。現在、これからどのように保存と資料館の建設を八王子市に実現させていくか模索しているところです。

《単行本等》『地下秘密工場』のんぶる舎

<代表者>中村 吉且

59 花岡“蜂起”問題にこだわる会(大阪)

大阪市西成区津守1-13-28 ポッポ気付

はなおか

Tel 06-561-9372

中国人強制連行・花岡事件に関心をもつ各地のグループ・個人らで'91年4月に結成された「花岡問題全国連絡会(準)」の一つで、大阪を中心に活動しています。花岡蜂起事にこだわる中から、強制連行・強制労働の実態を可能な限り具体的に掘り起こしています。また、事実を認めようとしめない政府と鹿島建設に対して追求を行なっていきます。一部に中国の民衆の賠償請求権を否定する人達もいます。今後そうしたグループとの公開討論も含め、日本の民衆としてのあり方を多くの人々と共に深めて行きたいと思います。

《単行本等》『中国人強制連行資料“暗闇の記録”』(1991年7月)、ビデオ「花岡・蜂起の底から」(91年4月)

60 半田空襲と戦争を記録する会

〒475 愛知県半田市花園町3-12-12 佐藤方

はんた

Tel 0569-22-6848

<代表者>佐藤 明夫

1962年に発足。メンバーは、教員、市民など10名。1945年1月から10月まで、半田市にあった中島飛行機に成鏡道から1200名の青年が強制連行され、軍用機の生産に従事した。空襲で45名が爆死、数十名が病死。(一昨年在日の有志と協力して、鎮魂祭を行う。) この青年たちの調査を行ってきたが、遺族や生存者などの証言を得ることが、今後の課題。ほかに、この地方

の戦時下における在日朝鮮人の労働や生活のききとりを行う。
 《単行本等》『半田空襲の記録』『半田空襲ものがたり』パンフ『半田空襲と戦争—その8』

61 ビッタムの会

名古屋市千種区池上町2-7-1 本橋正男方

びったむ

Tel 052-781-4690

第1回「全国交流集会」を名古屋で開催。その後、この経験に基づき様々な市民グループと連帯しながら活動する。太平洋戦争犠牲者遺族会が戦後補償を求め来日した際、名古屋に招き緊急集会を持つ。また、日常風景の中に侵略戦争の爪跡がどのような形で残り、それが今日何を私たちに提起してくるのかビジュアルに訴える写真集を共同出版予定。この作業の中で新たな地下壕も発見しており調査は今後の課題。会のメンバーが中心となって「ぼんそんふぁ」隔月発行。

《単行本等》『ビッタム—地下軍需工場と朝鮮人強制連行の記録』

62 ビデオプレス

<代表者>松原 明

〒164 東京都中野区中野5-24-16-201

ビデオ

Tel 03-3385-6901 FAX 03-3389-0535

自主制作したビデオをつくっている。在日朝鮮人の人権問題、国鉄問題など。運動を広げるための武器としてビデオ（映像）の活用を訴えたい。

《単行本等》ビデオ『ウトロといきる』『強制連行パートI』など

63 姫路朝鮮問題研究会

<代表者>松尾 司

〒670 兵庫県姫路市飾磨区恵美酒600 姫路市教育会館内

ひめじ

Tel 0792-35-2020 FAX 0792-35-3111

姫路市教職員組合に結集する活動家を中心とする組織で、1976年から活動しています。4年前、加西市北条地下工場の調査を行い、朝鮮人強制連行・強制労働の問題について考えるようになりました。教職員として、強制連行・強制労働の歴史を掘りおこし教材化することによって、新たな平和教育の創造をめざしているところです。

64 兵庫在日朝鮮人教育を考える会

<代表者>上垣 正明

〒661 兵庫県尼崎市御園2丁目3-10 山崎気付

ひょうご

Tel 06-493-3320

1980年1月、全国の高校で実施された旺文社の「実力テスト」日本史の問題は、民族差別と皇国史観に貫かれていた。抗議の声をあげた朝文研顧問や教員達が結成した会である。以後、朝文研活動の交流、国籍条項撤廃闘争、県教委・市教委との教育方針確立のための交渉、年4回の在日朝鮮人教育セミナー主催、県内各高校卒業者の就職・進路状況調査・・・等に取り組んでいる。各会員が県内各地で担っている活動も多い。

《単行本等》『兵庫の在日朝鮮人生徒にかかわる教育と運動』（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ特集文剛君追悼）

65 兵庫朝鮮関係研究会

<代表者>徐 根 植

〒661 兵庫県尼崎市次屋1-16-5 徐根植方

ひょうご

Tel 06-499-3449 FAX 06-499-3449

兵庫県在住の在日二世、三世を中心としてつくられた研究会です。古代からの朝鮮と兵庫の関係、おもに在日朝鮮人の歴史などを文献資料、現地調査、同胞達の聞き書きにより記録に残す作業をしています。共同テーマとして県内の鉱山、地下工場、軍需工場への朝鮮人強制連行について調査しています。

《単行本等》『兵庫と朝鮮人』（つつじ印刷）、『鉱山と朝鮮人強制連行』（明石書店）、『地下工場と朝鮮人強制連行』（明石書店）、ビデオ『川西航空北条地下工場』『川西航空甲陽園地下工場』

66 兵庫県・在日朝鮮人の人権を守る会

神戸市中央区中町通3-1-15 神戸コーポラス2階 神戸合同法律事務所内

ひょうごりん

67 兵庫在日外国人保護者の会

<代表者>李 鍾 順

〒662 兵庫県西宮市結善町4-30 李鍾順方

ひょうござ

Tel 0798-72-8778

解放後46年経った今も、本名が名乗れない社会はおかしい。子どもたちに、私たちと同じよう
なつらいしんどい思いはさせたくないというオモニたちの熱い思い。同じ思いの保護者が、語
り合える場と仲間を求めて、会をつくりました。韓国・朝鮮人の子どもたちが民族の誇りを持
てる社会になるよう、力を合わせてカッチハジャ！みんなが住みやすい社会に、共に生きよう
！と。会は南北、国籍の壁を超え、出会うと元気になります。

68 日吉台地下壕保存の会

<代表者>永戸 多喜雄

〒223 横浜市港北区下田町3-15-27 寺田方

ひよしだい

Tel 045-562-1282

保存の会は、旧帝国海軍が残した日吉台地下の連合艦隊司令部跡の保存・公開と平和記念会館
の建設を実現するために、幅広い市民参加のもとに保存運動をすすめていこうと、1989年4月
8日に発足しました。今では、保存運動と共に、地下壕に関する調査研究・記録保存・見学会
・学習会・講演会・会報の発行（隔月）などを行なっています。会費は個人1口1000円で1口
以上。郵便振込は、横浜2-62997、日吉台地下壕保存の会。

《単行本等》「会報」

69 広島キリスト教社会館

<代表者>相原 一博

〒733 広島市小河内町1-13-3

ひろしまき

Tel 082-232-4274

70 広島の強制連行を調査する会

<代表者>深川 宗俊

〒731-11 広島市安佐北区安佐町飯室1445-1 山田方

ひろしまの

Tel 082-835-0221 FAX 082-875-5445

昨年12月8日に結成されたばかりですが、すでに会員は130名（県外8名）に達しています。
会への関心は高いが具体的な調査活動はこれからと言うところです。会の目的は、県下の強制
連行の実態調査を通じて、日本のアジア侵略の歴史認識を改めて一人一人が問い直すことにあ
ります。具体的には、当時の資料や文献、知事引き継ぎ書の公開、朝鮮人・日本人の証言聞き
取り、ダム現場や工場などの現地調査を呼びかけて活動に参加してもらう。東洋工業の徴用工
だった鄭忠海さん（在韓）の証言を6月13日に聞いた。会報誌を8月に発行予定。

《単行本等》パンフ「強制連行（労働）の調査にあなたも参加して下さい」

71 松代大本營の保存をすすめる会

<代表者>青木 孝寿

〒380 長野市中御所1-13-3

まつしろの

Tel 0262-28-8415

72 松代大本営を考える会

<代表者>山根 昌子

〒182 東京都新宿区市谷台町17-4 山根昌子方
まつしろ

Tel 03-3359-6926

73 マンガン鉱山史を記録する会

<代表者>李 貞 鎬

〒601-05 京都府北桑田郡京北町字下弓削 丹波マンガン記念館気付
まんがん

Tel 07715-4-0307

京都府の丹波地方で、戦前から戦後にかけて多く掘られたマンガン鉱山では、たくさんの朝鮮人労働者がいた。だが、1970年代に多くが閉山し、今や忘れ去られようとしている。「記録する会」は、じん肺と戦いながら「丹波マンガン記念館」を作った李貞鎬氏を中心に、マンガン鉱山と共に生きた在日の言葉をビデオ作品、写真集、ルポルタージュなどとして残すための取材を続けている。

74 三重県本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・喪相度）の追悼碑を建立する会

<代表者>金 静 美/鈴木 裕史

〒518-04 三重県名張市百合が丘西2-103 斉藤方
みえけん

Tel 05956-3-7919

1926年三重県本町（現熊野町）で二人の朝鮮人労働者が地元の町民によってなぶり殺されるという事件が起きました。それから83年後、私たちは民族差別に根差したこのような事件を二度と起こさないという戒めをこめて追悼碑を建立する運動を始めました。また同時に事件を扱った『熊野市史』などが事件の真相をねじ曲げていることを指摘し、その記述を書き直すよう求める運動を行なっています。

《単行本等》パンフ『六十五年後からの出発』

75 三重在日朝鮮人史研究会

<代表者>森川 篤実

〒514 三重県津市上浜町1-18 上浜荘一号 岡坂方
みえけん

Tel 0592-28-7054

「三重在日朝鮮人史研究会」は、昨年からは月1回行っていた「朴慶植さんを囲んでの戦前の在日朝鮮人史」の講座がきっかけで今年から始まっています。現在は、とりあえず戦前の朝鮮人の関係した事件の新聞記事の抜き出しを主に行ない、月1回集まっています。新聞記事集めをきっかけとして、青山トンネルの朝鮮人労働者の調査がなされてきています。集会等や、いろいろな資料の出版もしたいと思っています。

76 南兵庫郵便局部落解放研究会連絡会議

<代表者>中村 義彦

神戸市長田区細田町7-1-40 長田郵便局集配気付
みなみ

Tel 078-642-0503

77 ミラノ書店

<代表者>金 弘 茂

〒424 静岡県清水市江尻台町13-20
みらの

Tel 0543-64-0141 FAX 0543-65-0088

78 民族差別と闘う兵庫連絡協議会

<代表者>黄 光 男

〒661 兵庫県尼崎市小中島1丁目17-19

みんとろ

Tel 06-492-3272

民族差別と闘う連絡協議会(略・民闘連)は①在日韓国・朝鮮人の生活実態をふまえて民族差別と闘う実践をする。②民族差別と闘う各地の仲間と交流し連帯する。③在日韓国・朝鮮人と日本人が共闘する。という3原則に基づいて各地の運動をすすめています。毎年1回、全国交流集会を開催し、本年は17回で大阪で行ないます。全国ネットの連絡協議会で、全国事務所は大阪です。兵庫では神戸、阪神間、高砂などで運動をすすめています。

《単行本等》『民闘連ニュース』(月刊)『指紋は人権を侵す』『在日韓国・朝鮮人の補償・人権法』(新幹社)

79 むくげの会

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

むくげ

Tel 078-851-2780 FAX 078-821-5878

1971年につくられた「朝鮮」について勉強するサークル。会員は9名。毎週火曜日に神戸学生青年センターで例会を開き、会員の研究発表のほか、ゲストを招いての懇談会などを行っている。地域の在日朝鮮人史研究もテーマのひとつで『神戸と朝鮮人』の刊行も企画している。隔月刊の『むくげ通信』(B5版、28頁)に研究成果を発表し、広く定期購読者に配付している。(年間1,500円)

《単行本等》『朝鮮1930年代研究』(三一書房)『むくげ通信』『GHQ文書研究ガイド』『むくげ愛唱歌集』『中国の朝鮮族』『植民地下朝鮮・光州学生運動の研究』ほか

80 毛沢東思想学院

<代表者>竹田 幸子

〒665 兵庫県宝塚市山本東1-16-6

もうたくと

Tel 0797-88-2240 FAX 06-583-1739

1968年の創立以来、学習活動を中心にとり組んできました。この20数年間の、日本と世界の状況が大きく変化する中で、私達の学習内容も、そのときどきの問題点を明らかにし、一歩先を見通そうと努力してきました。今年に入って、公開講座として、天皇制、フェミニズム、地球環境、原発、湾岸戦争、農業問題等についての学習会を開催しました。それぞれ、真摯に研究し実践している講師を招き、認識を深めています。

《単行本等》機関誌『学院ニュース』(月刊)『世紀末の世界と日本』

81 RAIK (在日韓国人問題研究所)

<代表者>姜 栄 一

〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館52号

らいく

Tel 03-3203-7575 FAX 03-3203-7591

在日韓国・朝鮮人の人権に関わる資料センター、研究センターとして活動。創立1974年。在日韓国人、日本人の協力スタッフ、ボランティアによって幅広い活動を行なっている。80年代は指紋拒否運動を中心に担ってきたが90年代は国際人権活動、民族教育、そして戦後補償の問題に取り組んでいく。

《単行本等》『RAIK通信』『ハヌルー在日韓国人自分発見BOOK』『JAPAN'S SUBTLE APARTHEID』

82 6・30花岡の会

広島市西区小川内1-13-3 広島連帯労組内

ろく

※第2回全国交流集会の「報告書」にも、この賛助団体の紹介を掲載いたします。8月末までに紹介文、単行本等を次ぎのところまでお送り下されば追加して掲載いたします。

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内 飛田雄一

**第1回 朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働を考える
全国交流集会 (1990.8.26~27) 報告集**

(1990年12月発行、B5、60頁、500円)

全体集会

あいさつ(ビットムの会・本橋正男)

各地からの報告

3分間スピーチ

閉会のあいさつ(朴慶植)

分科会報告

① 調査・研究

② 保存

③ 戦後補償

現地調査報告

岐阜県久々利地下工場跡

〃 瑞浪市地下工場跡

感想文・新聞記事・団体一覧・都道府県別参加者数

※ 申込みは、〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内
第2回交流集会実行委員会へ。送料 210円(10部以上の場合は2割引)



第2回 朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会〈資料集〉

1991年7月27日発行(1,000部)

〈編集・発行〉 第2回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内

TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878

〈定価〉 800円